

第一次地域福祉活動計画

計画期間:平成26年4月1日から平成31年3月31日まで（5 年計画）

平成27年度実行計画進行管理



取手市社会福祉協議会

Toride city council of social welfa

「とりで^友YOU・^愛Iプラン」の進行管理

1 目的

この方針は、「とりで^友YOU・^愛Iプラン」（以下「プラン」という。）を効果的かつ効率的に推進するため、プランに基づく様々な取り組みについて検証し、継続的に改善することによりプランの円滑な進行管理に資することを目的とする。

2 進行管理の対象

（1）行動計画の評価

- ・実施項目において、成果の評価及び今後の方向性について個別評価を行う。
- ・評価結果は、実施項目シート毎に記入する。

3 進行管理の実施体制

（1）事業所及び担当者の役割

- ・実施項目の企画・実施にあたる担当者が、実施項目毎に成果を評価し、今後の計画の進行状況を確認・見直しをする。
- ・担当者が行った進行管理について、事業所内で共有化し評価・検討する。また、必要に応じて実施項目の担当者の評価を基に振り返りを行い、事業所としての評価としてまとめるとともに、課題を明らかにし、共通理解を図りその解決方法を検討する。
- ・行動計画の進行進捗状況について、年度内に取手市社会福祉協議会運営委員会に報告し、助言を受けることとする。
- ・助言等を受け行動計画の修正を図り、年度末にその状況等を取手市社会福祉協議会運営委員会に報告する。

4 評価の基準

（1）成果状況の評価基準

評価区分	成果内容
5	順調に計画通り進行した
4	概ね順調だが不十分な点が少しあった
3	実施されている部分もあるが不十分な点も多い
2	既に実施予定の時期であるが、まだ取り組んでいない
1	実施方法も含め事業実施に再検討が必要であり、取り組んでいない

※年度当初に作成する、年間の事務事業執行計画に対しての成果状況とする。

5 進行管理の実施時期

（1）成果状況評価

- ・1月中旬に（4月～3月見込み実施分）の成果状況の評価を実施する。

（2）今後の計画の進行状況を確認・見直し

- ・年度末（1月中旬）に1回実施する。
- ・担当者及び事業所が行った評価結果について、1月の事業所連絡会議において確認・検証する。

6 進行管理の実施結果

- ・進行管理の実施結果については、取手市社会福祉協議会運営委員会及び理事会・評議員会に報告する。
- ・進行管理の実施結果については、必ず担当者が次年度担当者に引き継ぐ。

第一次地域福祉活動計画（とりでYOU・Iプラン） 平成27年度実行計画進行管理

1. 基本方針

平成27年度のYOU・Iプラン（平成26年度～平成30年度）は、「市民ひとりひとりが、その人らしく地域で安心してくらせる福祉のまちづくり」を基本理念として2年目を迎えることから、前年度の事業の評価検証並びに事業精査の遂行を踏まえ、住民主体の地域福祉の一層の向上を目指し、行政や福祉関連の団体・事業所との密接な連携を図り、効率的・効果的な行動計画の進行管理に努めてまいりました。

2. 主たる行動計画

●子育て支援及び福祉教育プログラムの開発、検討

核家族化や急速な少子高齢化が進み、育児の悩みや不安を抱える親たちが増加するなかで、地域ぐるみで子育てを支援する取り組みが進められています。地域の支援を必要としている子供（心身障害児含む）及び保護者に対し、療育指導や意見交換の場を設け、育児不安の解消と親の社会参加を促し、集団支援及び個別支援を通して、児童の健全な発達を支援してまいりました。

昨年に引き続き、子どもの頃からの福祉意識を高めることを目的に、学校での福祉教育プログラム推進支援の展開、学校と地域のための福祉教育プログラムの開発、検討をする。市内中学校・高等学校でモデル事業を展開し、児童生徒、学校教職員、地域やプログラム提供者が無理なく継続できるプログラムの開発を目指しました。

●総合的な相談支援体制の強化とネットワークによる取り組み

総合相談機能の充実、社会福祉協議会職員に求められるソーシャルワーク技術の向上を糧に、あらゆるニーズをとらえ、常に寄り添った支援ができるよう、相談機能の充実に努め、総合的・横断的な相談支援体制をさらに強化し、多様な社会資源との連携を図り、障がい者施設等を拠点として解決に努め、さらに、施設等の機能を有効に活用して地域との連携にも努めてまいりました。

また、今年度より、生活困窮者自立支援法施行に伴い、社協も市から委託を受け「くらしサポートセンター」を開設し、生活困窮者が安心して地域で暮らせるよう努めて参りました。

●座談会の開催に取り組む

自分が暮らす地域にどのような福祉課題が顕在化・潜在化しているのか、その課題解決を図るために、住民として、団体として、機関として、どのような関わりができるのか。それぞれの立場で考える機会を設け、その課題の解決に向けて「自分たちでできること」を考え、主体性のある福祉のまちづくりに取り組むことを目的として、昨年度より更なるステップアップとして「助けあいのまちづくり」を考え推し進めながら、関係機関との連携も構築しながら一歩ずつ進めて参りました。

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

			シート作成年度	平成27年度
実施項目名	生活課題を抱えている人への支援		担当係	藤代支所
			職名	係長
事業開始年度	平成26年度	担当者	氏名	五十嵐玉枝
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	1	もっと学ぼう、知らせよう—情報の共有促進	
	行動計画	①—(1)	社会資源に関する情報の収集と提供に努めます	
現状と課題	住民の生活課題は実に多様です。人によって知りたい情報も、相談する相手(機関)も違います。 どのような制度や施設、公的機関、医療機関、人的資源があるのか、必要な人にもわかりにくい状況といえます。 必要な時に必要な情報を提供できるようにするにはどうしたらいいのか、どこに聞くのがベストなのか、把握しておく必要があります。			
目的 (何のために)	相談できずに困っている人、どこに何をどう聞いたらいいかわからない人を一人でも減らしていくため			
対象 (誰・何を対象に)	市民全般			
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	引き続き、市民の生活課題に応えられるよう、社会資源に関する情報を収集し、ホームページや情報誌などで紹介していく。 世代別、地区別の抱えている生活課題を把握するために、あけぼの敬老まつりやつつじ園まつり、福祉まつり等でアンケートやインタビューなどを試みる。 他市町村社協等のホームページや情報誌も参考にして内容の充実を図り、読みやすいものにしていく。			
平成27年度 の実施状況	ホームページ、情報誌、フェイスブックでの広報活動 ホームページ ・くらしサポートセンター パンフレット掲載(8月)、相談事業内容紹介 ・各事業所の講座や行事などのお知らせ(随時更新) ・福祉活動計画・3ヵ年事業計画等、進捗状況報告など 情報誌 ・くらしサポートセンター 開設紹介 ・地域の担い手募集 (ファミリー・サポート・センター、有償在宅福祉サービス、移送サービス) ・介護家族の会紹介 ・老人福祉センター「あけぼの」、「さくら荘」紹介など フェイスブック ・各事業所でその都度、行事の告知や報告などの掲載 アンケート、インタビューは実施していません。			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明
		4月～ 3月	2	ホームページのアクセス数の微増、広報誌やフェイスブックの閲覧への反応を感じられるものの、まだ一方的な発信にとどまっている。
	課題			
	多様なニーズの把握とあらゆる世代に興味を持ってもらえる情報発信			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	生活課題を把握するために、行事や講座などでアンケートを試みる。 情報誌の内容の充実。 他市町村のホームページ、情報誌等を参考にする。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	引き続き各事業所で取り組んでいる事業などを紹介していく。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		平成 28年 4月～ 平成 29年 3月	いろいろな行事や会議などに参加し、情報をいただき、紹介していく。あるいは困っていること、知りたいことなどのニーズを把握する。 随時、各媒体で掲載する。	
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
平成28年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

			シート作成年度	平成27年度
実施項目名	福祉教育プログラム作成		担当係	地域支援係
			職名	係長
事業開始年度	平成26年度	担当者	氏名	小林一郎
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	1	もっと学ぼう知らせようー情報の共有促進	
	行動計画	②ー(1)	福祉教育プログラムを作ります	
現状と課題	小中学校等福祉体験を実施しているが、実際に社協ではどのようなものができるかを広く学校に知らせる情報提供が出来ていない。			
目的 (何のために)	社協での福祉体験は一部の教員が把握し実施している状況にあるが、福祉教育プログラムを作ることで福祉体験等依頼しやすくする。			
対象 (誰・何を対象に)	小中学校児童			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	校長会での福祉体験の内容等詳細を一覧にした冊子「やさしい心の種をまく」を配布。福祉体験ボランティアについての説明。市内小学校6校中学校2校に各50,000円を助成により、児童生徒のボランティアへの関心を育む。7月中に中学、高校へ夏休み中に活動できるボランティア活動やイベント情報を提供し生徒に周知してもらい参加を募る。同時に学生の福祉体験ボランティア養成講座への参加も募る。			
平成27年度 の実施状況	5月校長会において社協で実施している福祉体験の内容等詳細を一覧にした冊子「やさしい心の種をまく」を配布。社協での取り組みについてを説明。若年層ボランティアの育成の為、ボランティア活動推進校の指定についての説明も合わせて行った。福祉体験から得た知識や福祉に関心を持った生徒たちを活動につなげるためボランティア活動のための費用として昨年同様市内小学校6校中学校2校高校2校に各50,000円を助成した。また、中学、高校の訪問で社協のボランティア養成講座等の参加も募ったが参加には至らなかった。			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明
		4月～ 3月	4	昨年度より福祉体験冊子「やさしい心の種をまく」により各学校での福祉体験が増加。福祉体験について各学校の先生方に福祉体験の内容等認知度が上がったと予想される。
	課題			
	福祉体験の回数が増えていきボランティアの派遣が重なるとボランティアが派遣困難な状況になる。特に車イス、アイマスク白杖、シニア体験についてのボランティアが足りなくなる。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	福祉体験の中でも車いす、アイマスク白杖、シニア体験のボランティア派遣が難しいため、なるべく3種類を単体で行うのではなく3種類を1度に行うようにしている。また、ボランティアについては広報の充実、他のボランティア団体への呼びかけなど増員を図る。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	福祉体験ボランティアの車イス、アイマスク白杖、シニア体験のボランティアについてはシルバーリハビリ体操指導士の会から多く参加しているため今後も呼びかけをするとともに個人ボランティアに参加を促す。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		28年4月 ～ 29年3月	校長会での福祉体験の内容等詳細を一覧にした冊子「やさしい心の種をまく」を配布。福祉体験ボランティアについての説明。市内小学校6校中学校2校高校2校に各50,000円を助成し、児童生徒のボランティアへの関心を育む。若年層にも目を向け、福祉体験ボランティア養成講座への学生の参加を募る。	
	年 月 ～ 年 月			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
ボランティアの取り組みについて表彰される学校もある。学生のボランティア育成にはやさしい心の種をまくの活用や、教育委員会など学校機関との連携もしながら進めていってボランティア活動につなげる。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

			シート作成年度	平成 2 7 年度
実施項目名	趣味サークルにおける社会参加		担当係	地域支援係
			職名	係長
事業開始年度	平成 2 6 年度	担当者	氏名	小林一郎
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	2	支えられ、支え合おう一担い手の育成	
	行動計画	②ー(2)	趣味サークルを有効に活用します	
現状と課題	全国的にボランティアの担い手不足の現状がつづいている。様々な取り組みがなされているが効果的な手法が確立されていない。角度を変えたアプローチが必要。			
目的 (何のために)	ボランティアの担い手不足がボランティアという枠組みにとらわれず共通の趣味から仲間づくりをし、その延長線上でボランティア活動につなげる。			
対象 (誰・何を対象に)	取手市民一般			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた いのかなど)	フォークソング講座に参加した方によるギター演奏で月1回の勉強会を開催し、随時募集を新規会員を獲得しながら会員を増やす。年に数回講師を呼び、公開講座も開催する。平成27年度中に高齢者施設やいこいの場等での演奏活動ができるよう社協も協力する。			
平成27年度 の実施状況	サークルを結成し、4月より月1回の勉強会を開き、サークルのメンバーにギター演奏をしてもらいギターに合わせて歌を歌ってもらった。参加者は随時募集しているため、今年度20名の参加者が増えた。			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明
		4月～ 3月	3	フォークソングの世代への反響があり今年度サークルのメンバー増員があった。実際の訪問活動の際には、ギターだけでなく周りで歌って盛り上げるために歌のメンバーも必要になり、歌のパートのメンバーが特に増えている。
	課題			
	伴奏としてのギターメンバーが毎回参加できればよいが、休む場合があり、1曲ごとに打合せしながらの演奏になっている。演奏についての共通認識を図るためリーダーを決めて演奏をスムーズに進められるようにする。また、曲目が少なくさらに練習を重ねる必要がある。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	リーダーを決め演奏の構成についての話し合いを持ち、特にギターの演奏についての割り振り等も決めていく。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	現在演奏活動を行っている他の団体への呼びかけ、演奏についての参加協力を要請する。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		28年4月 ～ 29年3月	講師を招き「フォークソングのつどい」を開催。公開講座として新規メンバー加入を目指す。また、現在のサークルメンバーも一緒に参加してもらい、演奏の展開等勉強してもらう。	
	年 月 ～ 年 月			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
平成28年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

			シート作成年度	平成27年度
実施項目名	移動運転者講習会		担当係	地域支援係
			職名	主幹
事業開始年度	平成25年度	担当者	氏名	広瀬嘉子
根拠法令等	【国土交通省認定研修（認定番号：国自旅第197号）】			
プランにおける 該当項目	行動目標	2	支えられ、支え合おう一担い手の育成	
	行動計画	②ー（2）	専門的なボランティア活動を促進していきます。	
現状と課題	市内3団体で行っている移動サービス事業では、運転ボランティアの高齢化が進み各団体の定年年齢に達する方が多くなっており、新規加入する方も少なく運転ボランティアが不足しています。また、移動サービス事業のPR方法を工夫し、多くの方々に移動サービスを理解していただき運転講習会への参加者の増加を目指す。			
目的 (何のために)	市内3団体の運転ボランティアの増員も含め、茨城県南地域の運転ボランティアを増員する目的で取手市外の方の参加も可能にし、講習会を開催する。			
対象 (誰・何を対象に)	68歳未満の茨城県南地域在住・在勤者（普通運転免許保持者）			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	2日間の開催。1日目は、移動サービス概論や運転に必要な知識と心構え、リスクへの対応、セダン利用者理解等の講義を行う。2日目は、基礎的な接遇技術及び介助技術及び実技演習、福祉自動車の特性（演習を含む）、路上運転実技、セダン利用者介助実技等を行う。			
平成27年度 の実施状況	10月31日、11月7日の全2日間開催。 1日目には移送サービスの概論説明、運転に必要な知識と心構えの講義。 2日目には接遇・介護演習、そして車イス車の取り扱い等の技術を習得。 参加者並びに受講修了者は市内・市外を含め男性8名・女性4名の合計12名。			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～ 3月	3	参加者 1 2 名中、取手市在住は 8 名で取手地区については 3 名でした。 取手社協に登録及び活動している方は 2 名です。	
	課題				
	受講募集人数は 2 4 名に設定したが目標人数の半数の 1 2 名となる。 受講者の中には事業所で働く方も参加。しかしながら間口を広げないと参加者増にならず開催が出来なくなる可能性がある。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	現在活動中のドライバーに協力してもらい、知人・友人等を紹介して頂く。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	市内の福祉有償運送団体 2 団体に周知等の協力を依頼する。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		28年4月 ～ 28年9月	ボランティア精神のある方に声をかけ講習会に参加頂ける方の確保。		
28年10月 ～ 29年3月		移動運転者講習会開催（全 2 日）			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
平成 2 8 年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成27年度	
実施項目名	ボランティアの新規登録増加	担当係		地域支援係	
		担当者	職名	主幹	
事業開始年度	平成26年度		氏名	廣瀬嘉子	
根拠法令等					
プランにおける 該当項目	行動目標	2	支えられ、支え合おう		
	行動計画	②ー(2)	趣味サークルを有効に活用します。		
現状と課題	今後、継続しているボランティアの高齢化が問題になる。新規登録者を希望しているが、60歳以下の方は以前とは違い働いている人がほとんどという情勢。例年、各種講座を開催しているがボランティア活動に繋がる人材は約20%あまり。新規ボランティアの開拓・継続的な社会活動が必要。				
目的 (何のために)	安心して暮らせる平和な社会を創ることにボランティアは必要。				
対象 (誰・何を対象に)	市内のボランティア未経験者				
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	各種講座終了後、ボランティア活動につなぐ。講座開催中にボランティア活動をしてもらえる様に個人的に誘導する。講座終了後30%のボランティア登録を目指す。また、キューピット等掲載方法に工夫をこらしお知らせする。 【講座内容】 ①手話奉仕員養成講座 ②点字講習会 ③朗読ボランティア養成講座 ④絵本お話しボランティア講座 ⑤身体障害者(児)支援講座 ⑥精神保健ボランティア養成講座 ⑦福祉体験ボランティア養成講座 ⑧男性講座 ⑨男性料理教室				
平成27年度 の実施状況	現在は開催予定の9講座中、8講座が終了しています。参加人数は各種講座約10名、年齢層は30代～70代と幅広い方にご参加頂きました。 今後は1月末に手話奉仕員養成講座(全32回)終了予定。				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明			
		4月～ 3月	2	各種講座は全体的に参加人数が減少傾向にありました。ボランティアとして活動している割合は講座にバラつきがありますが、多いものは30%の方が登録。			
	課題						
	実際にボランティア活動している人の高齢化もあり、活動者は減少している。 ボランティアをしたいがきっかけがつかめない人、または社会問題などに関心があり活動したいと 思っている人を発掘していくことが必要。						
	課題解決のための改善内容・取り組み方針						
	講座の内容の整理・統合を図りながら、講座受講生が実施の活動につながるような支援策を検討、実 施していく。						
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)						
	現在のボランティアニーズなどの情報を市役所の市民協働課に確認する。						
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明				
		28年5月 ～ 28年8月	広報活動に工夫を凝らし社協の講座の知名度をあげる。				
28年9月 ～ 28年12月		講座開催中に受講生にピーポイントで声掛けをしていく。					
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見							
市民大学等は有料でも多数の参加者が受講しているので、教育委員会等と調整しながら魅力ある講座 を開催してほしい。							

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成27年度	
実施項目名	災害ボランティア育成	担当係		地域支援係	
		担当者	職名	係長	
事業開始年度	平成26年度		氏名	小林一郎	
根拠法令等					
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実		
	行動計画	①ー③	緊急支援できるボランティアを組織化します		
現状と課題	いつ起こるかわからない災害時の対策について地域との連携、組織化がされてなく緊急時の対応に難しい状況にある。				
目的 (何のために)	災害時ボランティアセンターを立ち上げた時に協力をしてもらうボランティアを平時より育成し有事の際に迅速に対応できる組織づくりをする。				
対象 (誰・何を対象に)	取手市民一般				
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	災害の知識と災害支援について学習する防災ボランティア養成研修会を開催。研修終了後ボランティア登録をしていただき災害に関する講演会等イベントに参加してもらう。すでに災害ボランティアに登録している方へのフォローアップの一環として各地区の防災訓練の情報提供、関係機関との連携、避難訓練等に参加できるようにする。				
平成27年度 の実施状況	10月県社協に登録した防災ボランティアと市民を対象に防災に関する研修会を開催。災害時の知識習得や災害対応を目的として静岡県地震防災センター片井賢一氏による避難所運営ゲーム（HUG）指導員養成講座を実施。また、防災対策の把握の為、中央タウン、桜が丘、光風台、つつじヶ丘、新取手の防災訓練に参加。地域ごとの災害対策について知るとともにキューピットやフェイスブックに活動状況を掲載し、広く一般の方へ地域の防災の重要性、防災訓練参加につながるよう広報した。				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明
		4月～ 3月	4	避難所運営ゲーム指導員養成研修会では自主防災会からの参加があり、災害時の混乱、対応に関する知識、備えについて考えるきっかけになった。今後社協に保有する避難所運営ゲームを使って、今回の参加者が指導員として自分たちの地域で研修会を行うことができれば、より身近な問題として多くの方が防災に関する意識が高まる。
	課題			
	今年度は常総市の災害があったので災害について身近な問題としての意識は高まったと思うが、風化することなく平時の準備を怠らないよう意識をつなげることが難しい。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	地域での防災訓練の協力や防災に関する研修会を引き続き行い、各地域の自主防災会にも働きかけ、より多くの方の参加協力が得られるようにする。また、結果や地域で行われている防災訓練についても広報し、それぞれの地域での取り組みについても知ってもらおう。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	地域の自主防災会への社協開催の研修会参加の要請や防災訓練での車イス講習会実施など協力関係の構築。防災について社協がより身近になるよう努める。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		28年4月 ～ 29年3月	防災ボランティア養成講座の開催。県社協防災ボランティアのフォローアップ研修も開催し災害に関する啓蒙啓発活動を引き続き行う。また、防災訓練にも積極的に参加し、地域との連携を図る。	
	年 月 ～ 年 月			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
常総市の災害で関心が高まっている。地域で活動している自主防災会と連携した研修を開催するなど社協の活動のアピールにもつなげるので積極的に実施してほしい。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

				シート作成年度	平成27年度
実施項目名	相談支援事業			担当係	生活支援係
				担当者	職名
事業開始年度	平成25年12月から			氏名	佐藤晶彦
根拠法令等	障害者総合支援法				
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実		
	行動計画	②-(1)	一人で抱え込まないための相談支援活動の充実		
現状と課題	■利用者に対して、ニーズの聞き取り、計画の作成等に多くの時間を要する。関係機関との連携、各事業所の担当者の協力を得ながらスムーズに取り組めるような配慮が必要。 ■相談支援専門員の社会資源情報の不足。 ■適切なプランニングにおける相談支援専門員の専門性、資質向上。				
目的 (何のために)	■障害福祉サービスの利用を希望される方に対し、個々のニーズに合った総合的な援助や、解決すべき課題を踏まえ、最適なサービスのプランニング、モニタリングをおこなう。障害者やその家族の生活支援に関する相談に応じ、関係機関との連携を密にとり、住み慣れた地域において生活できる体制をつくる。				
対象 (誰・何を対象に)	■障害者総合支援法の計画相談支援の対象者 ○取手市在住の方で、障害福祉サービスを申請した障害者又は障害児であって、市町村がサービス等利用計画の提出を求めた方。				
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた いのかなど)	■事業の効率化 ○相談支援専門員の専門性、資質の向上（他事業所との意見交換会、事例検討）。 ○自立支援協議会等、専門研修への参加（定期的に参加 年4回程度）。 ■利用者への支援 ○障害福祉課、特別支援学校との連携、他事業所との情報交換を定期的におこなう（随時）。 ○定期的なモニタリングを実施することで利用者の状態確認をおこなう（随時）。 ○必要に応じてサービス担当者会議を開催し情報の共有を図る（随時）。				
平成27年度 の実施状況	■事業の効率化 ○相談援助業務担当者研修の参加。 ○自立支援協議会への参加により、他事業所との連携、情報の共有を図ることができた。また、相談支援部会（龍ヶ崎保健所管内相談支援部会意見交換会）において、他事業所等の計画、モニタリングのプレゼンテーションにて、お互いの計画内容の確認、他事業所との連携、情報の共有、意見交換をおこなうことができた。 ■利用者への支援 ○障害福祉課、他事業所等との連携、情報交換ができた。 ○定期的なモニタリングはできたが、モニタリング時期がずれることもあった。 ○必要に応じてサービス担当者会議を実施することができた。				

進行管理

	成果状況	成果状況評価		成果状況に対する説明		
		4月～3月	3	○相談件数においては、現在154件。件数は多いが、アフターフォローについて、十分でない部分があった。 ○困難ケースも増えてきており、数回の自宅訪問、電話連絡等をおこなってきたが、本人、保護者との意見の相違があり中々先に進まないケースが出てきている。 ○他事業所との連携、サービス担当者会議の開催、事例検討会にて様々な事業所と意見交換をおこなうことができた。		
	課題					
	件数は多いが、アフターフォローについて、十分でない部分があった。困難ケースも増えてきており、他事業所との連携、対応できる知識、人脈、社会資源の開発が今後にも必要になる。ただ、保護者と本人との意見が違うなどのことから、中々先に進まないことがあり、難しさを感じるケースがでてきている。					
	課題解決のための改善内容・取り組み方針					
	時間を有効に使っていく必要がある。電話対応での状態の確認、支援施設での様子等定期的におこなっていく。また、相談支援事業所だけで進めていくのは困難なため、多くの関係機関との連携、相談を随時おこなっていく。					
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)					
	様々な事例に対応していけるよう、支援員の知識向上、他事業所等との連携をおこなっていく。					
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明			
		28年4月～28年9月	相談支援員の専門性を高めていく必要がある。他事業所がおこなう情報交換会、自立支援協議会、相談支援部会への参加をしていく。知識の向上として、常に最新の情報を確保していく。			
		28年10月～29年3月	相談支援員の専門性を高めていく必要がある。他事業所がおこなう情報交換会、自立支援協議会、相談支援部会への参加をしていく。知識の向上として、常に最新の情報を確保していく。定期的な研修を含め社会資源の開発を視野に入れていく。			
	取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
相談担当職員のメンタルな部分に配慮しながら相談業務に従事してください。 平成28年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。						

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

				シート作成年度	平成 2 7 年度
実施項目名	生活困窮者自立相談支援事業（取手市委託）			担当係	生活支援係
				職名	主事
事業開始年度	平成 2 7 年度			担当者	氏名 村田隆紀
根拠法令等	生活困窮者自立支援法（平成 2 5 年法律第 1 0 5 号）				
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう——福祉サービスの充実		
	行動計画	②-（１）	一人で抱え込まないための相談支援活動の充実		
現状と課題	生活困窮者自立相談支援事業は、生活困窮者が困窮した生活から脱する支援を行うことが目的である。昨今は困っていることがあっても、自分ひとりで抱え込んでしまうことがあり、困窮に陥ってしまうことがある。現在存在する生活困窮の状態にある者、あるいは将来的に生活困窮となった者が、その生活上の課題を解決するときのひとつの手段として、早期に生活困窮者自立相談支援事業を活用されることが望ましい。しかし、生活困窮者自立相談支援事業は、今年度より法が施行されたため、その事業内容や支援提供窓口が市民には広く認識されていない状況である。そのため、早急に事業内容と利用窓口の周知が必要となってくる。				
目的 （何のために）	生活困窮者の早期段階での問題解決と利用促進のために生活困窮者自立相談支援事業と相談窓口の周知をする。				
対象 （誰・何を対象に）	市民全般				
事業・業務の 具体的内容等 （何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた いのかなど）	・パンフレットの作成をする。（６月までに） ・パンフレットを市民活動の場所に設置する。（７月までに） ・広報誌や社会福祉協議会ホームページ上へ掲載する。（広報誌は適時、ホームページは７月までに） ・さまざまな相談ニーズに対応できるように職員のスキルアップをはかっていく。				
平成27年度 の実施状況	4月に市や社会福祉協議会の広報誌へくらしサポートセンターについての内容を掲載し、7月にパンフレットの作成、公共施設への設置をする。一部のNPO団体や民生委員協議会へ事業内容の説明を行なう。県社会福祉協議会の開催する生活困窮者自立支援機関の連絡会議への継続的な参加や、生活困窮者自立支援分野に係る課題に関連したNPOや関係機関の開催する研修に参加し、支援の向上に努める。				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明
		4月～ 3月	3	相談窓口開設当初は6件であったが、それ以降は月平均十数件の相談件数である。パンフレットを持参して相談に訪れる市民や福祉機関の職員もいる。取手市やハローワークなどとの連携や県社会福祉協議会での会議に参加することで、相談職員の資質の向上と相談課題への対応の強化を図っている。
	課題			
	相談内容がさまざまであるため、相談者の問題解決が当機関だけでは難しい場合がある。相談者のなかには所得が不十分なために困窮している者がいるが、就職へとつながるケースが少なかった。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	他機関との連携を図るために、相談者の情報を共有する必要がある。相談者に個人情報の取扱について個人情報の取扱規程を提示し、同意を得て、他機関との連携した支援を可能にしていく。相談対応職員の資質の向上のため研修等に参加し、知識の向上と圏域における資源や支援のあり方の情報収集を行なっていく。就職や収入の増加により困窮状態を改善できる相談者にはハローワーク（生活保護受給者等就労自立促進事業）の利用をすすめていく。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	ハローワークや他の支援機関との連携した相談者への支援が必要である。			
		期間	今後の方向性の説明	
		28年4月 ～ 29年3月	他機関との相談者情報の共有について相談者から承諾を得て、他機関との連携を深める。 他機関の活動や強みを知る。 増収により困窮改善にいたる相談者にはハローワークの利用をすすめ、ハローワークと	
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
就労準備支援事業を開設していただきたい。 自治体とハローワークと連携して一体的に実施していただきたい。 相談担当職員のメンタルな部分に配慮しながら相談業務に従事してください。 平成28年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成27年度
実施項目名	発達相談事業	担当係		取手市立こども発達センター
		担当者	職名	児童発達支援管理責任者
事業開始年度	平成27年度		氏名	宮崎江美子
根拠法令等	児童福祉法			
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう——福祉サービスの充実	
	行動計画	②-(1)	ニーズを早く解決する仕組みをつくります	
現状と課題	■市内在住で発達に心配のある未就学のお子さんの相談を受け、更にこども発達センターのサービスを希望される場合には事前の予約により市障害福祉課職員（発達支援専門員）の面談を受けていただきます。現在当センター利用に繋がる発達支援専門員による面談は、平成27年度1名を増員して行ないますが希望者の増加により直ちに対応できるかは疑問です。 ■既に当センター利用児の発達相談および就学相談については、随時、当センター所属の相談支援専門員（社会福祉士）が対応しています。			
目的 (何のために)	■発達に心配のあるお子さんの為の相談事業です。当センターを利用するための相談、そして既に当センターを利用しているお子さんの心配ごとや就学に関する相談支援を行ないます。			
対象 (誰・何を対象に)	■市内在住で発達に心配のある未就学のお子さんとその保護者を対象とします。			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたいのかなど)	■子育て中の保護者の心配ごと（ことば・運動面など）の相談を電話で受けています。その際、療育が必要と思われる相談の場合には、市障害福祉課職員（発達支援専門員）の面談を受けていただきます。また、保育所や保育園、幼稚園での集団生活での心配に対しての相談にも応じます。 ■当センターの利用児で、就学を控えたお子さんの保護者の相談に応じたり、市教育委員会や学校との連携を行います。 ■その他として、療育手帳の申請に関し、市担当課との連携を行い医療機関や他機関の紹介などを行います。 ※発達相談事業につきましては、保護者のメンタルケアを含めこども発達センター運営の重要な部分を占めるため、平成26年度に続き実施項目といたします。事業所内の相談事業、保育所、学校等との連携、就学児の就学先との連携を充実していきます。			
平成27年度 の実施状況	■当センターの利用については、保健センターが行っている、1歳6ヶ月健診や3歳5ヶ月健診の際に紹介されるケースが多く、まずは市障害福祉課職員（発達支援専門員）の面談を受けて頂きます。 ■幼稚園や保育所、保育園に通っているお子さんについては、担任の先生からの紹介により保護者からの相談に対応をしています。 ■就学相談においては、当センター利用児71名を対象に行いました。小学校入学にあたり、保護者の不安なことや心配ごとについての対応を教育委員会と連携を図りながら実施いたしました。 ※新規に、今年度11月より医療相談を開始いたしました。これは児童発達を専門とする小児科医を招き、隔月で1日3ケース専門的な分野から保護者の相談に応じていくものです。			

進行 管理	成果 状況			成果状況に対する説明
		4月～ 3月	4	■市役所職員（発達支援専門員）による初回面談件数 4月～12月：50件 1月～3月：相談予定件数は6件。随時、受け付けています。 ■発達相談（当センター相談員対応）：55件 ■就学相談（当センター相談員対応）：71人中58件 就学相談においては、保護者の希望により行なっています。 ■医療機関紹介相談（当センター相談員対応）：22件 ※医療相談：11月に3件（1月に3ケース予定・3月に3ケース予定）
	課題			
	■保護者からの相談内容が多様となり、特に発達診断や病院紹介についての相談が増加しています。そのため、療育機関として、より専門的に相談に応じることが必要となり、対応する職員の専門性の向上が重要と考えます。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	■市障害福祉課職員と連絡会を持ちながら面談件数の確認を取り、待機児童が出ないようサービスの受け入れを行っていきます。 ■新規に、当センターにおいて小児科医を招き、専門性の高い発達相談を取り入れていきます。			
	協働・連携事項（目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について）			
	■関係機関との連携を密に行い、情報を共有しながらスムーズに初回面談へと繋げていきます。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		27年4月 ～ 27年9月	■随時、市障害福祉課職員と連絡会を行い状況把握を行いながら、初回の面談へと進めていきます。 ■お子さんの日常生活での心配ごと、療育に関することなど保護者の相談に応じていきます。また、就学を控えたお子さんの保護者の相談に応じ、教育委員会や学校との連携を行ないます。	
	27年10月 ～ 28年3月	※前期同様に相談事業を進めて行きます。 ■随時、市障害福祉課職員と連絡会を行い状況把握を行いながら、初回の面談を進めていきます。 ■お子さんの日常生活での心配ごと、療育に関することなど保護者の相談に応じていきます。また、就学を控えたお子さんの保護者の相談に応じ、教育委員会や学校との連携を行ないます。		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
平成28年度も住民ニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いいたします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

				シート作成年度	平成27年度
実施項目名	見守りの輪作り			担当係	藤代支所
				職名	係長
事業開始年度	平成26年度			担当者	氏名 五十嵐玉枝
根拠法令等					
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実		
	行動計画	②ー(2)	みんなで守る意識を高めます		
現状と課題	旧藤代地区も住民の関係が希薄になっており、何もサービスや事業が入っていない認知症の方の徘徊などが多くなっています。				
目的 (何のために)	認知症の徘徊の方の早い発見や、虐待などの発見、孤独死の防止				
対象 (誰・何を対象に)	市民全般（主に藤代地区）				
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	引き続き市民の方に認知症ポスター養成講座などを紹介し、対象者に積極的な声かけや見回りをしてもらうようにする。 藤代地区地域包括支援センターのなごみの郷さんに、ふれあいサロンやボランティア団体の会合などに来ていただき、地域とのつながりを強化していく。 徘徊している高齢者を見かけた方が、そこに行けば行政や警察などに連絡してくれるというように、協力してくださるお店(コンビニやガソリンスタンド、商店など)や、個人のお宅を探す。				
平成27年度 の実施状況	地域包括支援センターなごみの郷の職員の方と連携を図り、情報交換を密にしている。 ・毎回ではないが、介護家族の会や在宅福祉サービス協力会員の方々の定例会に出席していただいている。 ・在宅福祉サービス利用者で徘徊する方のケースにも関わっていただいている。ケアマネージャーの方も交えて、話し合いをしたり、社協が動けなかった時に、搜索してくださったことがあった。 ・徘徊している方の情報を交換。 協力してくださる店舗はまだ見つかっていないが、コンビニや商店街などで情報をいただいている。 ボランティア団体（4団体）に情報提供や声かけなどのお願いをした。				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明
		4月～ 3月	2	まだまだ把握していない方が多く、防災無線でも時々藤代地区の方の捜索アナウンスが流れます。できるだけ多くの方に関わっていただけるようにする努力が不足しているかもしれません。
	課題			
	情報提供者や、声かけ、保護、連絡してくださる協力者(ボランティア)を増やす。駆け込める場所(お店)などを探す。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	引き続き、地域包括支援センターなごみの郷さんや高齢福祉課と情報を共有していく。お店などでの情報収集。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	障害者福祉センターふじしろの散歩や環境美化運動など外出する時に、徘徊している方を見かけたら、声かけをしてもらったり、支所や関係機関に連絡してもらうなど、協力をお願いする。地区公民館などにも協力をお願いする。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		平成 28年 4月～ 平成 29年 3月	引き続き見守り体制を強化するために、ボランティアさんや各種団体さんなどにも情報をいただいたり、見かけたら連絡をしていただけるよう、協力をお願いする。協力してくださる店舗を探す。	
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
平成28年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

				シート作成年度	平成27年度
実施項目名	地域清掃活動による、福祉センターふじしろ広報活動			担当係	障害者福祉センターふじしろ
				職名	主事
事業開始年度	平成27年度			担当者	氏名 平嶋浩司
根拠法令等					
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実		
	行動計画	②-(2)	みんなで守る意識を高めます		
現状と課題	取手市全体だけでなく、藤代地区においても障害者福祉センターふじしろの認知度が低い。福祉センターふじしろの場所、存在の認識がないため、利用者への関心も低く、地域住民の福祉活動への参加を推進できていない。				
目的 (何のために)	地域福祉活動を推進していく上で、地域の中にどのような福祉施設があり、様々な人々が生活していることを福祉センターふじしろの広報活動を通して発信し、地域住民の皆さんに認知してもらう。				
対象 (誰・何を対象に)	福祉センターふじしろ利用者と職員が地域住民の皆さんを対象に活動				
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたいのかなど)	毎月第二、第三火曜の午後二時から行っているクラブ活動内において運動クラブに所属している利用者と、市内を散歩しながら路上のクリーンナップ活動に取り組む。 その際には、福祉センターふじしろを周知してもらうために全員が揃いのウェア（ビブス）を着用し、活動。 毎年7月第二土曜の午前中に開催される「鬼怒川・小貝川クリーン大作戦」に福祉センターふじしろとして参加計画する。				
平成27年度 の実施状況	第二、第三火曜のクラブ活動内において、安全面に考慮しながら小貝川土手を道路を中心に路上クリーンナップ活動を実施。 平成27年7月11日（土）におこなわれた「鬼怒川・小貝川クリーン大作戦」に、利用者・保護者10名で参加。				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明			
		4月～ 3月	4	定期的な清掃活動により、地域住民から声をかけられる機会が増えた。 毎年行われる、「鬼怒川・小貝川クリーン大作戦」に福祉センターふじしろとして参加することにより、施設の認知度を高めることができた。			
	課題						
	現在、毎月2回の清掃活動を実施しているが、より地域貢献度、施設の認知度を高める活動が必要とされる。						
	課題解決のための改善内容・取り組み方針						
	現在、月2回ある運動クラブ活動と連動して清掃活動を行っているが、清掃活動に取り組む利用者の人数や、活動回数を毎月2回から3回へ増やすことなどを検討し、活動の幅を広げていく取り組みが必要。						
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)						
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明				
		28年4月 ～ 28年9月	28年度「鬼怒川・小貝川クリーン大作戦」へ参加。 継続的に、地域清掃活動に取り組む。 参加人数、回数等を再検討、活動場所の見直し。				
		28年10月 ～ 29年3月	検討、見直しを受け、清掃活動の幅を広げる。				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見							
・地域住民等の協力、参加を募り、活動の充実を願いたい。 ・「小貝川クリーン作戦」について、河川敷だけでなく、周辺道路の清掃を行ってはどうか。							

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

			シート作成年度	平成27年度
実施項目名	愛の定期便活動を通しての見守りネットワークづくり		担当係	取手ヘルパーステーション
			職名	管理者
事業開始年度	平成26年度	担当者	氏名	田之上由香
根拠法令等				
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実	
	行動計画	②- (3)	見守り助け合いネットワークづくり努めます。	
現状と課題	少子高齢化や核家族化が進行し、独居の方や高齢者世帯の方が多くなっています。近隣関係が希薄になってきており、孤独死の増加が懸念されます。取手ヘルパーステーションでは取手市からの委託事業である「愛の定期便」を行っています。希望される閉じこもりがちな方を対象に乳製品を配布して安否の確認をしています。申請された方への事業の為、介護や人との関わりを拒否される方の安否確認を今後どのようにしていくかが課題になっています。			
目的 (何のために)	愛の定期便活動を通して、利用者以外の方でも異変等を早期に発見する事ができ、迅速に対応できるようなネットワークづくりをしていく事を目的とする。			
対象 (誰・何を対象に)	取手市在住の高齢者世帯の方や一人暮らしの方を対象とする。			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	・乳製品（ヤクルト）配布日 月曜、水曜⇒ヤクルトさん（井野センター、戸頭センター） 金曜⇒取手市社会福祉協議会ヘルパーステーション ・愛の定期便訪問時に本人の不安や心配な事を傾聴しながら、近所の方などの異変や気になる事なども情報収集できるような関係を作っていく。 ・訪問先のご近所の方にも積極的に挨拶や声かけを行い、訪問活動をしている際に徘徊等の異変を感じたら早期に対応できるようにしていく。 ・最終的にはヤクルトさんや取手ヘルパーだけでなく、愛の定期便活動を通して地域住民同士で見守りができるネットワークを構築できるようにしていく。			
平成27年度 の実施状況	愛の定期便の活動中に異変等に気が付いた時は、ヤクルトさんと取手ヘルパーとの連携を密にし、高齢福祉課や緊急連絡先へ連絡し、必要な対応をしてもらうことができた。 訪問時にご本人の話を傾聴することで、情報収集を行い、必要があれば適切な機関に連絡をとるなどの対策を講じることができた。			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明
		4月～ 3月	3	愛の定期便活動中に近隣の方と顔見知りになることで、訪問宅以外にも声かけや挨拶を行い見守りを行うことができた。 訪問活動中に近隣宅の新聞がしばらく溜まっていた為、高齢福祉課へ連絡をとり、その後の対応をお願いした。
	課題			
	高齢化が進行していく中で、愛の定期便活動だけでは見守りが不十分である。必要な機関との連携は図れているが、さらに充実したネットワークを構築するには他職種や専門機関の協力や、住民同士の見守り意識を高めていく必要がある。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	取手市では平成28年4月より総合事業が始まることもあり、地域での活動が重要視されていく。愛の定期便活動を地域住民の方へ周知してもらえるように、今後も積極的に愛の定期便活動を行う必要がある。活動を通して地域資源や専門機関だけでなく、地域住民同士での見守りができるようにしていく。 ホームケアふじしろと同じような活動内容の為、次年度は計画を一本化していく予定である。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	平成27年4月より、取手市内での地域包括支援センターが市直営以外にも日常生活圏域の4ヶ所に設置された。今後も取手市役所高齢福祉課を中心にして地域包括支援センターとも連携をとり、地域での見守りを強化できるようにしていく。			
		期間	今後の方向性の説明	
		28年4月 ～ 29年3月	訪問先以外でも地域住民へ挨拶や声かけを積極的に行い、異変等に気が付いた時は、適切な機関につなぐことで早期に対応できるようにしていく。	
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
・H27から、市内に4箇所の地域包括支援センターができて、一人暮らしの高齢者の各家庭に訪問し、情報収集して、必要なサービスに繋ぐなど良く動いてくれている。H28.秋ごろから、「地域協議体」として、地域包括支援センターが中心になり、地域住民、民生委員、ボランティア等一緒に活動していく予定になっている。地域包括支援センターを4箇所に分けた意味合いを考え、十分に機能して有効に活用していく必要がある。 ・愛の定期便の申請方法がわからないので教えて欲しい。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

			シート作成年度	平成27年度
実施項目名	愛の定期便によるひとり暮らしの高齢者の見守りネットワークづくり		担当係	ホームケアふじしろ
			職名	管理者
事業開始年度	平成26年度	担当者	氏名	亀井恵子
根拠法令等				
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう- 福祉サービスの充実	
	行動計画	②- (3)	見守り助け合いネットワークづくりに努めます。	
現状と課題	「愛の定期便」月、水、金（週3回）一人暮らしの高齢者の方へヤクルトをお届けし安否確認を行っている。訪問時危険な状態の時は、市へ連携を取っている。しかし愛の定期便を知らない人がたくさんいる、又近所と関わりたくない人もいるので孤独や危機不安等把握しきれていない状況である。市にはいろいろなサービスがある事も知らない人がいる。また、安否確認の手段もいろいろ考えられる。			
目的 (何のために)	ひとり暮らしの高齢者が地域と関わる事によって孤独や危機からのSOSを見逃さないようネットワークづくりをしていく。			
対象 (誰・何を対象に)	ひとり暮らしの高齢者を対象とする。			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	・愛の定期便(市からの委託事業) ヤクルトをお届けし安否確認を行っている。 月、水 → (ヤクルト井野センター) - 金 → (ホームケアふじしろ) ・民生委員さん、ボランティアさん、ヤクルト井野センターからひとり暮らしの高齢者の情報を得る。 ・高齢者に関わる事件、事故等又高齢者の孤独やSOSを見逃さないようにする。 ・月、水、金だけでは不安なので他の曜日にも情報収集出来るようボランティアセンター、民生委員さんと連携をとり見守りネットワークづくりに努める。 ・「愛の定期便」をお届けする際、市にはいろいろなサービスがある事を知ってもらうため「保健と福祉のサービス」を持参している。			
平成27年度 の実施状況	・愛の定期便訪問時に高齢者の体調不良を見つけ包括支援センターへつなげることが出来た。体調が改善するまで民生委員さん、家族、ヘルパーと交互に毎日訪問した。 ・愛の定期便チェック項目を始めた。			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明		
		4月～ 3月	3	・愛の定期便で訪問することによって体調の悪い高齢者の情報を包括支援センターへつなげることが出来た。又その後定期的に高齢者の自宅を訪問し介護申請することになった。 ・毎週同じヘルパーが訪問出来ないので事務所内で情報を共有し継続して観察出来た。		
	課題					
	高齢化が進行していく中で、愛の定期便活動だけでは、見守りが不十分である。必要な機関との連携は図れているが、さらに充実したネットワークを構築するには他機関や専門機関の協力や、住民同士の見守り意識を高めていく必要がある。					
	課題解決のための改善内容・取り組み方針					
	取手市では平成28年4月より総合事業が始まることもあり、地域での活動が重要視されていく。愛の定期便活動を地域住民の方へ周知してもらえるように、今後も積極的に愛の定期便活動を行う必要がある。活動を通して地域資源や専門機関だけでなく、地域住民同士での見守りができるようにしていく。 取手ヘルパーステーションと同じような活動内容の為、次年度は計画を一本化していく予定である。					
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)					
	平成27年4月より、取手市内での地域包括支援センターが市直営以外にも日常生活圏域の4か所に設置された。今後も取手市役所高齢福祉課を中心にして地域包括支援センターとも連携をとり、地域での見守りを強化出来るようにしていく。					
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明			
		28年4月 ～ 29年3月	訪問先以外でも地域住民へ挨拶や声かけを積極的に行い、異変等に気が付いた時は、適切な機関につなぐことで早期に対応できるようにしていく。			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見						
・H27から、市内に4箇所の地域包括支援センターができて、一人暮らしの高齢者の各家庭に訪問し、情報収集して、必要なサービスに繋ぐなど良く動いてくれている。H28.秋ごろから、「地域協議体」として、地域包括支援センターが中心になり、地域住民、民生委員、ボランティア等一緒に活動していく予定になっている。地域包括支援センターを4箇所に分けた意味合いを考え、十分に機能して有効に活用していく必要がある。 ・愛の定期便の申請方法がわからないので教えて欲しい。						

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

			シート作成年度	平成27年度
実施項目名	赤い羽根共同募金運動 街頭募金		担当係	藤代支所
			職名	係長
事業開始年度	平成26年度	担当者	氏名	五十嵐玉枝
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実	
	行動計画	③ー(2)	魅力あるイベントを開催します	
現状と課題	10月に赤い羽根共同募金運動を展開していますが、使途がわからない、などのご意見を毎年頂戴しています。 PRも兼ねて、赤い羽根共同募金運動の一環として街頭募金は毎年、市内各駅やスーパーマーケット、ボランティアさん、学校等の協力をいただき実施していますが、新しい試みとして赤い羽根フリーマーケットを開催しました。 25年度は雨天のため中止。26年度は実施できましたが、秋のフリーマーケットはまだ浸透していなかったため、出店者や来場者が少なかったです。			
目的 (何のために)	赤い羽根共同募金のPRと、理解を得るため、また市民の交流の場作りのため実施			
対象 (誰・何を対象に)	市民全般			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	街頭募金として、引き続き赤い羽根フリーマーケットの実施 ・10月第3土曜日予定(5月にも開催しているので定着させるため、藤代庁舎駐車場にて開催) ・出店料 500円 (80店舗募集) ・赤い羽根共同募金グッズの配布 ・募金や社協のPR(ちらしの配布など) ・募金箱の設置 その他の街頭募金活動予定 JR取手駅、藤代駅、常総線 西取手駅、寺原駅、新取手駅(協力：取手地域女性団体連絡会) ヤオコー藤代店(協力：藤代紫水高校JRC部) マスダ戸頭店(協力：ボーイスカウト取手3) とりで産業まつり(協力：昭和産業株式会社) 今年度は、協力者には、助成金を配分しているボランティア団体等にも声をかけ、協力をいた			
平成27年度 の実施状況	10月17日(土)の予定→雨天のため10月18日(日)に実施 ・出店数 33店舗(出店料500円 16,500円の収入) ・来場者数 約500人 ・赤い羽根グッズのCM(寄付金をいただいた方に進呈) ・同日開催のつつじ園まつりでも募金活動(フリーマーケットと合計募金額13,410円) ※関東・東北豪雨災害義援金と折半 その他の街頭募金実施状況 10月 1日 JR取手駅等6駅で街頭募金(協力：取手地域女性団体連絡会) 10月11日 マスダ戸頭店(協力：ボーイスカウト取手3) 10月23日 ヤオコー藤代店(協力：藤代紫水高、はとの会)※関東・東北豪雨災害義援金と折半 11月7、8日 とりで産業祭(協力昭和産業株式会社) ※関東・東北豪雨災害義援金と折半 11月21日 ネットワークフェア ※関東・東北豪雨災害義援金と折半 10月・12月 いこいの場 ※関東・東北豪雨災害義援金のみ			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明
		10月～ 12月	3	フリーマーケットは昨年より来場者数は多かったものの、順延のため出店者のキャンセルが多かった。 グッズ（妖怪ウォッチクリアファイル・ねば〜る君ピンバッジ）のPRで、若干子どもの来場者が増えた。 今年は9月に県内で大きな災害があったためか、赤い羽根共同募金運動や義援金に対して市民の方の理解や協力があり、街頭募金も例年より募金額が多かった。
	課題			
	フリーマーケット ― 順延になった場合の店舗数と集客数の確保。 赤い羽根共同募金の流れや使途、歳末助け合い募金の使途などが、市民の方に十分に理解されていない。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	フリーマーケットの出店者数や集客数の増については、今年よりも早くからPRをし、イベントを絡めたり、他事業所にも協力していただいたりして、市民の方に興味を持っていただけるように工夫していく。 赤い羽根募金の増収についてはPR活動にも力を注ぎ、引き続き理解していただけるよう、努力する。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	各事業所や利用団体などにフリーマーケット出店をお願いする。 各事業所の利用者さんやお客さんなどにちらしを配布してもらう。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		4月～ 8月	5月の通常のフリーマーケット時にもPRをする。 社協や共同募金について、簡単なちらしなどを作成する。 他のフリーマーケットについても調査、研究する。	
			9月～ 10月	他事業所のイベントなどでちらしを配布。 市内のお店などにポスターを貼っていただく。 出店者の募集。
	取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
平成28年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

			シート作成年度	平成27年度
実施項目名	地域イベントへの参加		担当係	障害者福祉センターふじしろ
			職名	主事
事業開始年度	平成27年度	担当者	氏名	平嶋浩司
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実	
	行動計画	③-(2)	魅力あるイベントを開催します。	
現状と課題	これまでも様々な地域イベントへ参加をしているが、毎年決められたイベントへの参加だけを行っていたため、参加側も受け入れ側もマンネリ化している。 新たなイベントへの参加や既存のイベントへ違う形での参加を計画することで、地域社会との新たなつながりを持つことが課題。			
目的 (何のために)	地域イベントへ参加することにより地域社会との繋がりを強め、利用者の地域社会への参加、地域住民の福祉活動参加へのきっかけを作るため。			
対象 (誰・何を対象に)	福祉センターふじしろ利用者と職員が地域社会を対象に活動			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	地域イベントへの販売参加。 ・4月 さくら荘まつり、ふじしろ図書館まつり ・5月 赤い羽根ふれあいフリーマーケット、小貝川フラワーカナルバザー ・7月 買ってNetバザール ・9月 あけぼのまつり、藤代商工会まつり ・10月 赤い羽根ふれあいフリーマーケット ・11月 (仮) 福祉まつり、ネットワークフェア、光風台自治会まつり ・2月 取手ひなまつり 販売参加時、ブースにてポスターや看板を掲示、販促チラシ、施設紹介パンフレットなどを販売品と共に配布するなどし、広報活動もあわせておこなう。 イベント販売参加を通じ、イベント開催自体のノウハウを身に付け、将来的に福祉センターふじしろ主催のイベント開催を検討していく。			
平成27年度 の実施状況	予定販売イベントへの販売参加 ・4月 さくら荘まつり、ふじしろ図書館まつり ・5月 赤い羽根ふれあいフリーマーケット、小貝川フラワーカナルバザー ・7月 イオンタウン守谷買ってNetバザール ・9月 あけぼのまつり ・10月 藤代商工会まつり ・11月 福祉まつり、ネットワークフェア、光風台自治会まつり ・2月 取手ひなまつり (予定) イベントへの参加 ・8月 「いこいの場」にて出演者としてダンス発表 ・2月 同上 (予定)			

進行 管理	成果 状況	成果状況に対する説明	
		4月～ 3月	4 既存イベントだけでなく、新規イベントへも参加。 今まで行ってきた既存イベントへの販売参加とは違う、出演という形で新規イベントへ参加することができた。
	課題		
	例年通りのイベントに販売参加でき、販売参加以外での新規イベントに参加することができたが、今まで参加してきた既存イベント（販売参加）は土日開催のことが多く、今後の利用者、職員の参加意義を図る上でイベント自体の集客力や地域住民の参加状況など精査する時期にきている。		
	課題解決のための改善内容・取り組み方針		
	イベントにおける、利用者、職員の参加状況、販売売上の状況等を踏まえ、参加イベントを整理し、より地域社会とのつながりを深めることのできる新規イベントを探していく。		
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)		
	今後も地域支援係と連携し、「いこいの場」への継続的な参加をする。		
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明
		28年4月 ～ 28年9月	藤代地区を中心とした地域イベントの情報を積極的に取り入れ、センターふじしろとして参加できるイベントを探し、参加する。
		28年10月 ～ 29年3月	次年度へ向けた、センターふじしろ主催もしくは地域社会との共催イベントの企画、立案。
	取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見		
	平成28年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。		

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

				シート作成年度	平成27年度
実施項目名	高齢者の交流の機会を増やす「初心者囲碁教室」			担当係	老人福祉センターあけぼの
				職名	係長
事業開始年度	平成27年度			担当者	氏名 橋本 睦
根拠法令等					
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実ー		
	行動計画	③- (2)	魅力あるイベントの開催		
現状と課題	高齢化社会を迎え、高齢者のふれあいの機会を増やす場としての老人福祉センターあけぼのの役割は年々増していると考ええる。しかし、現状では集客数は年々減少しており、昨年のあけぼの趣味教室無料体験のアンケート調査から判りました。				
目的 (何のために)	高齢者が家に閉じこもってしまわないように、老人福祉センターあけぼのが施設として仲介を行い、高齢者の交流の機会を増やすために、魅力あるイベントを開催し、さらには、あけぼのの利用者を増加させることを目的とする。。				
対象 (誰・何を対象に)	市内在住60歳以上の高齢者。				
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	「初心者囲碁教室」を開催する。 老人福祉センターあけぼの趣味教室の協力を得て、6月中に3回講座で開催する。ゆくゆくは、高齢者同士のふれあいの場となるようにし、あけぼの大広間を利用してもらう。				
平成27年度 の実施状況	5月15日号の広報に掲載し、21名の参加があった。6月1日、6月8日、6月22日の三回講座を行い、講師をあけぼの囲碁教室の会長 島児氏と第二囲碁クラブの会長 加藤氏に引き受けて頂き、開催。最後の会の時にメンバーから、もっと続けて頂きたいと要望があり、8人の参加者が残って会の継続となった。あけぼのにある2つの囲碁クラブの講師からも好意的に協力を得られた。あけぼのの囲碁クラブに入会(2名)された方もいた。8月24日に打合せを行い、11月までに代表を決めて、新教室として考え中。				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明
		4月～ 3月	4	5月15日号の広報「とりで」にて講座開催案内をし、21名の参加があった。あけぼの趣味教室2つの囲碁クラブの会長にご協力を頂き、6月に3回開催した。その後、会員からの要望により平成28年度からは第二・第四月曜日の午前中に新教室として開催する。新会員募集も行う。
	課題			
	3回の講座を開催していくうちに参加人員が減ってしまった。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	広報「とりで」で参加者を募集し、新教室として開催する。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	新教室開催に当たり、指導者の確保として現在ある2つの囲碁教室の協力を得る。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		28年4 月～29 年 3月	平成28年度よりあけぼの趣味教室の1つとして、広報に募集をかけ新教室としてスタートする。	
		年 月 ～ 年 月		
	取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
平成28年度も住民ニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

				シート作成年度	平成27年度
実施項目名	健康クラブ「脳トレ」			担当係	老人福祉センターあけぼの
				職名	係長
事業開始年度	平成27年度			担当者	氏名 橋本 睦
根拠法令等					
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実ー		
	行動計画	③- (2)	魅力あるイベントの開催		
現状と課題	高齢化社会を迎え、高齢者のふれあいの機会を増やす場としての老人福祉センターあけぼのの役割は年々増えています。しかし、現状では集客数は年々減少しており、昨年のあけぼの趣味教室無料体験のアンケート調査から老人福祉センター自体の市内の認知度が低い事が判りました。				
目的 (何のために)	高齢者が家に閉じこもってしまわないように、老人福祉センターあけぼのが施設として仲介を行い、高齢者の交流の機会を増やすために魅力あるイベントを開催し、さらには、あけぼのの利用者を増加させることを目的とする。				
対象 (誰・何を対象に)	市内在住60歳以上の高齢者。				
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	以前から行われていた「あけぼの健康クラブ」に新プログラムとして「脳トレ」を5月から毎月第二・第四土曜日に実施する。ボランティアセンターにて養成を受けた脳トレインストラクターの協力を得ながら、ふれあいの場を提供するとともに、認知症予防も兼ねて実施する。				
平成27年度 の実施状況	5月15日号広報にてあけぼの健康クラブを掲載。その際、新プログラム脳トレが加わる事を合わせて記載。5月9日より試験的に始める。7月25日現在までの参加者のべ人数は76人となる。				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明
		4月～ 3月	4	5月9日～12月26日まで16回開催。延べ225人の参加クラブした。
	課題			
	参加人数に各月ばらつきもあり、参加者が少ない。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	来年度、「いきいき講座」に脳トレのコーチをまねいて講話と実際のトレーニングをおこない、周知を図る。合わせて、広報「とりで」脳トレ参加者を募集する。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	社内でボランティア育成の担当者の協力を得る。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		28年4 月～ 年 月	4月予定の「いきいき講座」で脳トレのPRを行う。	
		年 月 ～ 年 月		
	取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
平成28年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

				シート作成年度	平成27年度
実施項目名	ふれあいの機会を増やす「百人一首大会」			担当係	老人福祉センターあけぼの
				職名	係長
事業開始年度	平成26年度			担当者	氏名 橋本 睦
根拠法令等					
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実ー		
	行動計画	③- (2)	魅力あるイベントの開催		
現状と課題	高齢化社会を迎え、高齢者のふれあいの機会を増やす場としての老人福祉センターあけぼのの役割は年々増していると考えます。しかし、現状では集客数は年々減少しており、昨年のあけぼの趣味教室無料体験のアンケート調査から判りました。				
目的 (何のために)	高齢者が家に閉じこもってしまわないように、老人福祉センターあけぼのが施設として仲介を行い、高齢者の交流の機会を増やすために、魅力あるイベントを開催し、さらには、あけぼのの利用者を増加させることを目的とする。。				
対象 (誰・何を対象に)	市内在住60歳以上の高齢者。				
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	昨年に行った「あけぼの百人一首大会」を開催する。 10月に1回開催し、高齢者同士のふれあいの場をつくる。				
平成27年度 の実施状況	現時点で、日程を10月29日(木)を予定。 10月1日号の広報に掲載予定。				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明
		4月～ 3月	4	10月1日号の広報「とりで」に掲載し、10月29日に開催した。参加人員31名となり、ボランティア15名の協力を頂いた。アンケート結果から「和気あいあいと楽しめた。」「競技と交流が両立できていた。」「楽しく友達ができた」等あげられた。
	課題			
	昨年より参加人員が減少してしまった。アンケート集計にて悪かった点もあげられ、主な理由としてルール of 取り決めについてがあげられた。今後見直しが必要である。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	ルール of の見直しの検討を行う。あわせて百人一首の講習会を開催して課題である参加人数の減少への解決策を目指す。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	ボランティアの協力を得、大会を開催する。また、講師を依頼しあけぼの百人一首講習会を開催するとともに、講師の協力を得てルール of の見直しをする。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		28年4 月～29 年3月	百人一首講習会講師依頼し、開催に向け調整を行う。	
年 月 ～ 年 月				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
平成28年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

			シート作成年度	平成 2 7 年度
実施項目名	さくらまつり		担当係	老人福祉センターさくら荘
			職名	主幹
事業開始年度	平成 2 6 年度	担当者	氏名	中村 多美子
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう ― 福祉サービスの充実	
	行動計画	③-(2)	魅力あるイベントの開催	
現状と課題	高齢者が気軽に通える居場所が少なくなっている中で、ふれあいの機会を増やす場としての老人福祉センターさくら荘の役割はより大きくなってきています。この目的を果たすためには利用者を増加させることを求められています。今年度もさらに利用者の増加を図るため、引き続き魅力あるイベントを開催します。			
目的 (何のために)	高齢者のふれいあいの機会を増やすために魅力あるイベントを開催し、さくら荘の利用者をさらに増加させる。			
対象 (誰・何を対象に)	市内在住の 6 0 歳以上の高齢者			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた いのかなど)	さくらまつりの活性化。 ・昨年度に比べて新規の模擬店等を3月までに1つ増加させる。さくらまつりの来場者の増加に伴い、さくら荘のPRをし、さくら荘の入館者数の増加を目指す。			
平成27年度 の実施状況	・昨年度に比べ新規模擬店等を1つ以上増加させるために、模擬店予定者等に依頼を行った。			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～ 3月	4	・昨年度に比べ新しい演芸が3グループ増、模擬店が2グループ増。 演芸（3グループ） 太鼓、南京玉すだれ、マジック 模擬店（2グループ） 炊き込みご飯、和菓子	
	課題				
	・駐車場が少ない。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	・駐車場の確保のために、近隣の個人私有の空き地を借り、協力依頼をする。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	・ボランティアグループ、各種団体との連携をとる。 ・市役所（広報係）と連携をとる。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		27年11月 ～ 28年3月	・さくらまつり（平成28年度開催）ボランティアグループ、各種団体への依頼と打合せを行う。また、駐車場の確保のため依頼と打合せを行う。 ・社協情報誌、フェイスブックなど掲載し、情報を流す。		
年 月 ～ 年 月					
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
平成28年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

			シート作成年度	平成 2 7 年度
実施項目名	シニアからの英語 書いて 歌って		担当係	老人福祉センターさくら荘
			職名	主幹
事業開始年度	平成 2 6 年度	担当者	氏名	中村 多美子
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう ― 福祉サービスの充実	
	行動計画	③-(2)	魅力あるイベントの開催	
現状と課題	高齢者が気軽に通える居場所が少なくなっている中で、ふれあいの機会を増やす場としての老人福祉センターさくら荘の役割はより大きくなってきています。この目的を果たすためには利用者を増加させることを求められています。今年度もさらに利用者の増加を図るため、引き続き魅力あるイベントを開催します。			
目的 (何のために)	高齢者のふれいあいの機会を増やすために魅力あるイベントを開催し、さくら荘の利用者をさらに増加させる。			
対象 (誰・何を対象に)	市内在住の 6 0 歳以上の高齢者			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	“シニアからの英語 書いて 歌って” 基本講座 と 昨年度 “シニアからの英語 書いて 歌って” の修了生を対象のステップアップ講座をそれぞれ毎月 1 回年間 1 2 回を実施。 ・受講生同士の交流のため、年 2 回ぐらい交流会を開催する。 ・本場の英語を体験するため、年 2 回ぐらい国際交流協会に依頼し外国人に参加してもらう。 ・簡単な英語の会話が出来るぐらいに目指す。			
平成27年度 の実施状況	・ 4 月 2 4 日 (金) 1 0 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0、1 3 : 3 0 ~ 1 5 : 3 0 各講座ごとに開講式を行った。 ・ 姉妹都市ユーバ市訪問団との交流会 (ゲーム 2 種類) を行った。(ステップアップ受講生対象) 6 名参加			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明			
		4月～ 3月	4	“シニアからの英語 書いて 歌って” 基本・ステップアップ講座、それぞれ毎月1回年間12回を実施。 ・延べ出席者 基本 248人 ステップアップ 162人 ・姉妹都市ユーバ市訪問団との交流を行い、本場の英語を体験した。			
	課題						
	・今年度、交流会を開催できなかったため、講座生の交流の場を作る。						
	課題解決のための改善内容・取り組み方針						
	・受講生同士の交流のため、交流会を開催する ・本場の英語を体験するため、国際交流協会に依頼し外国人に参加してもらう。						
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)						
	・講師の方が国際交流協会の理事のため、国際交流協会と連携をとる。						
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明				
		28年4月 ～ 29年3月	シニアからの英語（基本・ステップアップ）講座を毎月1回開催。 受講生同士の交流会を開催。 本場の英語を体験。				
年 月 ～ 年 月							
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見							
平成28年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。							

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

				シート作成年度	平成27年度
実施項目名	郷土史巡りウォーキング			担当係	老人福祉センターさくら荘
				職名	主幹
事業開始年度	平成26年度			担当者	氏名 中村 多美子
根拠法令等					
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう ― 福祉サービスの充実		
	行動計画	③-(2)	魅力あるイベントの開催		
現状と課題	高齢者が気軽に通える居場所が少なくなっている中で、ふれあいの機会を増やす場としての老人福祉センターさくら荘の役割はより大きくなってきています。この目的を果たすためには利用者を増加させることを求められています。今年度もさらに利用者の増加を図るため、引き続き魅力あるイベントを開催します。				
目的 (何のために)	高齢者のふれあいの機会を増やすために魅力あるイベントを開催し、さくら荘の利用者をさらに増加させる。				
対象 (誰・何を対象に)	市内在住の60歳以上の高齢者				
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	郷土史巡りウォーキングを11月までに実施。 ・案内役として新四国相馬霊場八十八を巡る会の会員の方にお申し、さくら荘近隣の郷土史を巡り、ふれあいの機会を増やすとともに体力の維持・向上を目指します。				
平成27年度 の実施状況	・案内役の新相馬霊場八十八を巡る会の会員の方達と日程、コース、ポスター、休憩場所などの調整・打合せを行った。 ・11月1日号の広報とりで、11月号キューピットに参加者募集の記事を掲載。 ・11月28日（土）郷土史巡りウォーキングを開催。				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～ 3月	4	・ 11月28日（土）参加者30名（案内5名） ・ ＊アンケート調査の結果 回答者数 21名（※結果 別紙参照） ・ 次回も参加したいとの回答が多数あった。	
	課題				
	・ 広報とりで、キューピットで参加者募集をしたが反応が少ない。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	・ さくら荘近隣だけの郷土史ウォーキングではなく、取手市内全域などの郷土史巡りなどを考え計画を立てる。				
	協働・連携事項（目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について）				
	・ 案内役の新四国相馬霊場八十八ヶ所を巡る会の方達と連携をとる。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		28年4月 ～ 29年3月	・ 案内役の新四国相馬霊場八十八ヶ所を巡る会の方達と日程・コースの内容を打合せをする。		
年 月 ～ 年 月					
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
平成28年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

				シート作成年度	平成27年度
実施項目名	世代間交流「初めての将棋教室」			担当係	老人福祉センターあけぼの
				職名	係長
事業開始年度	平成27年度			担当者	氏名 橋本 睦
根拠法令等					
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実ー		
	行動計画	③- (3)	ふれあいの機会を増やします。		
現状と課題	高齢化社会を迎え、世代間交流の場が少なくなってきました。 老人福祉センターあけぼのは、子供と高齢者のふれあいの場の機会をつくります。				
目的 (何のために)	老人福祉センターあけぼのが施設として仲介を行い、あけぼの利用者と子ども達の交流の場を増やす機会をつくる。				
対象 (誰・何を対象に)	市内在住60歳以上の高齢者と小学生。				
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	本年度も引き続き、あけぼの陶芸同好会に依頼して市内の小中学校の校外学習や家庭教育の活動に協力を依頼し、陶芸体験の支援をお願いします。 また、あけぼの将棋教室に協力をお願いし、世代間交流を目的とした「はじめての将棋教室」を開催。小学生に参加を呼びかけ、3月までに1回開催する。高齢者との交流により、思いやりの心を育てる。				
平成27年度 の実施状況	8月19日 永山小学校の教頭と打合せ。子供達が春休みとなる、3月に将棋クラブや他のクラブにも依頼を検討中。永山小学校だけではなく、西部地区の小学生を対象に行えるよう検討。12月24日 あけぼの将棋クラブの会長と役員を交え打合せを行う。3月31日予定。永山小学校教頭と打ち合せた時に、女の子も楽しめるものをと要望あり。あけぼの茶道教室にも依頼。日程は未定。				

進行 管理	成果 状況			成果状況に対する説明
		4月～ 3月	3	4・5年生を対象に各学年5名ずつ、計30名の規模で計画。
	課題			
	将棋や茶道を知らない子供達にどう教えて行くか、2時間の間でどこまで教えられるか等の課題があげられる。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	開催までの期間に、あけぼの趣味教室の方がたと綿密な打ち合わせをする。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	教育総務課職員に詳細を説明し、永山小学校教頭と協議を行う。また、あけぼの趣味教室に依頼し男の子と女の子の両方が参加できる教室(将棋・茶道)を開催する。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		28年4 月～2 9年3 月	28年1月中に茶道教室とも打合せを行い、西部地区(永山小・戸頭小・高井小)学校宛てにパンフレットを持参して、趣旨説明を行う。4・5年生を対象にパンフレットを配布し、各学校で3月初旬までに取りまとめてもらい、進行を進める。予定としては3月26日茶道教室を3月30日は将棋教室を開催予定。	
年 月 ～ 年 月				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
平成28年度も住民ニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

			シート作成年度	平成27年度		
実施項目名	ボランティアの受け入れ、交流会の実施			担当係		つつじ園
				担当者	職名	係長
事業開始年度	平成26年度				氏名	濱田 正之
根拠法令等						
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう 福祉サービスの充実			
	行動計画	③- (4)	福祉施設との交流の機会を増やします。			
現状と課題	昨年度よりボランティアの受け入れは積極的に行ってきました。戸頭地域のボランティアや民生委員さん等、特定のグループに支援はいただいておりますが固定化、高齢化、若者の参加が少ないところです。 また、昨年も企画しましたが天候不良等のため実施できなかった交流会についても今年は9月に実施を検討しています。					
目的 (何のために)	障害者と市民の交流の場となるようにふれあいの機会を増やします。					
対象 (誰・何を対象に)	つつじ園利用者、職員がボランティア希望者を対象とする。					
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつま でに・どのレベ ルまで達成さ せたいのかな ど)	広報とりで、キューピット、独自のチラシの配布やホームページ、ブログ等を通して広くボランティアを募集。作業、散歩、外出支援など得意なボランティア活動に取り組む中でつつじ園と関わっていただきたい。その中で障害者への理解を深めていただくとともに、つつじ園のレクリエーション活動（芋ほり&焼き芋、バーベキュー、流しそうめん、ウォークラリーなど）行事など参加していただき、徐々に地域の皆さんが気軽に集まれる場となっていくようにしたい。 9月には日頃お力をいただいているボランティアさんにお集まりいただき交流を深めていただくよう「つつじ園ボランティア交流会」を開催したい。					
平成27年度 の実施状況	ボランティア募集について 年間を通じて広報活動を行い継続して募集を行ってきました。広報とりでやホームページ等の募集以外でも公開研修やEMボカシ説明会などの際にボランティア募集の認知活動に取り組みました。また、今年度は作業ボランティア以外にも外出支援へ参加していただいております。 第1回つつじ園ボランティア交流会について 10月2日（金）に実施、ウォークラリーのあとバイキング形式で食事会、ボランティア参加者40名、利用者、職員含めると100名以上の会となりました。					

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～ 3月	4	ボランティアの参加人数については昨年度並み（1日平均4名程度）ですが活動の幅としては広がってきており、作業以外のところでも関わっていただくことが少しずつ出来るようになってきました。 ボランティア交流会については大変ご好評いただき多くのボランティアさんからまた来年も参加したいとの声をいただきました。	
	課題				
	全体的に今年も若者の参加が少なかったです。障害者施設におけるボランティア活動に不安を持っている方も多いのではないかと思います。ボランティア活動を楽しむ機会、利用者とのコミュニケーション楽しむ機会についてもまだまだ不足していると思います。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	初回ボランティアさんには特に2回目以降のボランティア活動につながるような声かけ、指導をしていきたいと思います。交流会以外にもボランティアが利用者とともに楽しめる場の提供、またボランティアの皆さんの経験、技能、知識を生かせる新たな活躍の場についても検討していきたいと思います。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	ボランティア支援センターと連携をとり継続してボランティア協力者の数の増加を目指します。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		28年4月 ～ 28年9月	担当職員を各グループごとに決定し年間ボランティア協力者数の目標を設定したい。		
28年10月 ～ 29年3月		第2回ボランティア交流会を実施、日頃お力をいただいている感謝とともにつつじ園に対するご意見を伺う機会を設け今後の活動に反映させていきたい。			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
平成28年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成27年度
実施項目名	取手市立保育所との保育交流	担当係		取手市立こども発達センター
		担当者	職名	児童発達支援管理責任者
事業開始年度	平成27年度		氏名	宮崎江美子
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう——福祉サービスの充実	
	行動計画	③- (4)	福祉施設との交流の機会を増やします	
現状と課題	■こども発達センター単独通園児（年中、年長児1～3名、年少児1～2名）が毎月1回、午前中1時間程度、取手市立の保育所（7箇所）の活動に参加し交流を行っています。 保育交流以外にも頻繁に地域のこども達と関わりを持つことが理想と考えますが、現在のところそれには至っておりません。			
目的 (何のために)	■当センターの単独通園児が地域で同年齢のこども達と交流することで、対人関係を構築し、また通常と異なる環境の中で集団活動を経験することで社会性を身に付けます。			
対象 (誰・何を対象に)	■当センターの単独通園児と保育所のこども達を対象とします。			
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	■上記のとおり当センター単独通園児と取手市立の保育所園児との保育交流を行っています。 【保育交流の流れ】 ～ 9:50 保護者が各保育所に送る 10:00～11:00 保育所の活動に参加 11:15 当センター送迎車にて保育交流に参加した保育士、子供のを迎え 11:30～ 当センターに戻り各クラスの通常活動に参加 ■交流日以外でも同年齢のこども達と関わりが増やせるように、地域との関係性を築いていきます。また近隣の保育所の園庭を開放して頂き交流を深めていきます。 ■年度末に行われる所長会議に参加し、当センターとしての反省点をお伝えします。また、保育所側の要望を聞き、この保育交流がより充実するため意見交換を十分に行います。 ※平成26年度はこの計画の中で、当センターから交流のために出向くだけではなく、保育所から当センターに来ていただき交流をするという計画を立てましたが、送迎や補償の問題があり実施できませんでした。平成27年度は不定期ではありますが比較的近隣の保育所の園庭を解放していただき、交流を出来ればと考えています。			
平成27年度 の実施状況	■4月中に保育交流をするお子さんのグループを決めて、5月より実施します。 事前に保育所の担当職員と連絡を取り、参加人数や活動確認を行い交流を深めています。			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明			
		4月～ 3月	4	■単独通園利用児については、毎月1回定期的に市内公立保育所との保育交流に参加し、地域のお子さんとの関わる経験を広げることができました。 白山保育所（第3火曜日）：3名 久賀保育所（第1水曜日）：2名 舟山保育所（第3水曜日）：3名 永山保育所（第1木曜日）：3名 中央保育所（第2火曜日）：4名 戸頭北保育所（第2水曜日）：2名 吉田保育所（第4火曜日）：4名 ■近隣の保育所において園庭開放をして頂き、伸び伸びと身体を動かしお子さん一人ひとりの経験の幅を広げることが出来ました。			
	課題						
	■年間を通して、スムーズな交流ができるよう、当センターの職員と交流する保育所の担当職員との間で、活動内容を事前に確認する事が重要と考えます。						
	課題解決のための改善内容・取り組み方針						
	■保育所と当センターとの行事や活動の調整を行いながら親交を深めて行きます。 ■当センターの子ども達が日常環境の異なる中で、スムーズに活動に参加できるように事前に活動内容等を確認し、対応を検討しながら取り組んでいきます。						
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)						
	■各保育所のクラスの担当職員と当センター職員との間で、保育交流開始前に連絡会を実施します。双方の行事や活動内容について確認し、保育交流を実施する目的等について理解を深めていただきます。						
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明				
		27年4月 ～ 27年9月	■当センター利用児と地域の同年齢のお子さんとの交流を深めていきます。職員同士の連絡会を実施し、保育交流の目的等を確認しながら実施していきます。				
27年10月 ～ 28年3月		■保育交流を行なった保育所のクラスのお子さんを当センターに招き、一層関わりを深めて行きます。また、後期においても担当職員の連絡会を実施し、反省点等を話し合いながら次年度に繋げていきます。					
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見							
平成28年度も住民ニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いいたします。							

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

			シート作成年度	平成27年度
実施項目名	市内、小・中・高校の実習受け入れ等による地域交流活動		担当係	つつじ園
			担当者	職名
事業開始年度	平成26年度			氏名
根拠法令等				
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう 福祉サービスの充実	
	行動計画	④- (1)	お互いを理解しあう意識啓発に努めます。	
現状と課題	以前より実習の受け入れは行ってきたものの、まだまだお互いを理解しあうという部分では足りないところがあります。			
目的 (何のために)	より交流を深めることによって知的障害について理解していただくきっかけとなるようにしたい。			
対象 (誰・何を対象に)	つつじ園利用者、職員が近隣市町村の小、中、高校生を対象とする。			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつま でに・どのレベ ルまで達成させ たいのかなど)	戸頭小、戸頭中、取手二高など近隣の学校を、クラブ活動、作業、清掃活動、体力づくり等の時間で受け入れる。事前の打ち合わせや受け入れ後のフォローアップを含め、生徒さんが直接利用者と関わっていただく機会を出来るだけ多く設け、お互いにうまくコミュニケーションが取れるようにサポートしていく。興味のある生徒にはつつじ園まつり等のボランティアにつながるような支援もしていきたい。			
平成27年度 の実施状況	近隣の小中高校生の実習については可能な限り受け入れを行った。残念ながら今年度もその後につつじ園のボランティアとして関わっていただく事が出来たかという点、つつじ園まつり以外では難しいのが現状であった。			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～ 3月	2	今年度も実習は積極的に受け入れボランティア募集のチラシも配布させていたが、事前の打ち合わせや受け入れ後のフォローアップと言うところでは不十分であったこともあり、その後のボランティアにつながったケースはあまり多くなかった。	
	課題				
	実習を通じて交流を深めるところまでは至らなかった。昨年度と同じく、実習後に引き続き自然につつじ園と関わっていただけるような雰囲気と支援体制を構築することが急務と思われる。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	学校側の担当者との打ち合わせを行い、実習後に希望者はつつじ園でボランティア活動が出来る旨をボランティア募集のチラシを配布とともに周知したい。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	昨年に引き続き、近隣小中高等学校との連携の強化、実習の受け入れ先の拡大を検討。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		28年4月 ～ 28年12月	実習前につつじ園についての理解を深めてもらえるような機会（実習前の訪問、見学など）を設けるようにしたい。		
29年1月 ～ 29年3月		実習後につつじ園とのかかわりをもち続けていただけるようなフォローアップを行いたい。			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
平成28年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成27年度	
実施項目名	学校授業における職場体験学習/福祉体験学習の受け入れ	担当係		障害者福祉センターあけぼの	
		担当者	職名	係長	
事業開始年度	平成27年度			氏名	海老原 武
根拠法令等		障害者の日常生活および社会生活を総合的に支援するための法律			
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう―福祉サービスの充実		
	行動計画	④-(1)	お互いを理解しあう意識啓発に努めます		
現状と課題		身体障がいをお持ちの方への差別や偏見を無くすための方策が必要な現状に対し、健常者と広く世代を超えた交流を図れる場を設けていく事が課題と考えられる。			
目的 (何のために)		身体障害をお持ちの方と身近に接し理解して頂くことにより、差別と偏見を無くすよう市民意識を変えていく中で、小中学校の若い世代を中心に意識啓蒙に努めていく。			
対象 (誰・何を対象に)		あけぼの近隣の小中学校の児童・生徒を対象に行う。			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)		①事業実施へ向けての準備期間（4～8月） 市担当課と打ち合わせの上、市内各校へ職場体験/福祉体験学習の一環として受け入れる用意がある旨を連絡調整してもらい、参加希望される学校を把握の後、各校担当者と日程調整を行う。 ②事業実施（9月～3月） 年度内に3回程度、延べ20人以上の参加を持って実施。 事前にあけぼのの利用者へ事業の趣旨説明を行い、クラブ活動等を通して障害当事者との交流を持てる機会を提供する。			
平成27年度 の実施状況		①事前打合せ（8～12月） 戸頭中学校2年学年主任教諭と打ち合わせ実施。事業の趣旨と目的を説明しご了解を頂く。3学期1月に職場体験学習の事業を行う予定であり、その際の生徒参加により本事業に沿った活動を行っていく。また、あけぼのでの職場体験を希望された戸頭中学校2年学年生徒2名が来訪、体験学習内容等を打合せ後に館内を案内する。 ④職場体験学習実施（1月25～27日） 生徒2名による3日間の体験学習を受入れを実施。初日に、老人センターにおける高齢者の趣味活動参加/館内清掃業務の体験。2～3日目に障害者センター業務へ参加、身体障害者への理解を深めてもらう。			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明
		4月～ 3月	3	戸頭中学校2年生2名が障害者センターにおける活動に参加した。音楽クラブ、リハビリ、スポーツレクレーション等の活動を利用者と一緒に行い、身体機能についての理解を深めることが出来た。また、余暇の見守りの時間などは利用者との会話もはずみ、楽しげに交流する場面も見られた。
	課題			
	複数の学校からの受入れを考えていたが、1校のみの参加となってしまった。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	4月より小中各校と打合せを行い、学校のカリキュラムに沿った日程調整を行っていく。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	市内西部地区の小中学校に呼びかけ、あけぼのにおける実習の案内をする。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		28年4月 ～ 29年3月	引き続き体験学習の受入れを行い、身体障害者に対する理解を深めて頂けるよう普及啓蒙していく。	
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
平成28年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成27年度	
実施項目名	地域の中学校・高等学校との交流事業		担当係		取手市立こども発達センター
			担当者	職名	児童発達支援管理責任者
事業開始年度	平成27年度			氏名	宮崎江美子
根拠法令等					
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう——福祉サービスの充実		
	行動計画	④-（1）	お互いを理解しあう意識啓発に努めます		
現状と課題	■地域の方々へ児童発達支援事業の役割などの理解を深めているところですが、主に学校の総合学習である「職場体験活動」等の学生を受け入れながら意識啓発を図っています。まだ受け入れている学校が少ないため、福祉教育へのアプローチを検討中です。				
目的 (何のために)	■地域にある事業所に対する理解を深め異世代間の関わりを持ち、当センターのこども達の様子や事業所の役割等を構築していきます。				
対象 (誰・何を対象に)	■取手市内の中学校・高等学校の学生を対象としています。				
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで に・どのレベル まで達成させたいのかなど)	■地域の中学校や高等学校へ当センターの職員が訪問を行い、生徒達の体験の場を提供できるように学校の「福祉教育」にアプローチをします。 ■生徒の方には単独通園の通常プログラムに参加していただき、センターのお子さんの様子や職員の関わり方等を実際に経験し理解を高めていきます。 【交流の流れ】 ～ 9：30 打ち合わせ 10：00～13：30 単独通園体験 ・着替え補助、自由遊び ・朝の集まり、体操 ・課題（製作、感触遊び、散歩など） ・昼食、自由遊び ・帰りの会、降園 ■生徒の体験後に感想等を聞きながら児童発達支援事業の役割の理解を図るようにします。				
平成27年度 の実施状況	■地域の中学校・高等学校との学生との交流は行事などの都合によりできず、また今年度は、近隣の中学校からの「福祉教育」のなかでのボランティア希望もありませんでした。 ■小学校教諭の学校教育に活かす為のボランティア希望や、心理職員や作業療法士を目指す学生の療育現場の体験ボランティアの希望が多くありました。				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明			
		4月～ 3月	3	8月 小学校教諭 1名 9月 心理指導員希望者 1名 10月 心理指導員希望者 1名 11月 特別支援学校教諭 1名 12月 首都大学生 2名 1月 心理指導員希望者 1名 以上、7名がボランティア体験を希望されました。			
	課題						
	■地域の方々への児童発達支援事業の役割などの理解をもっと深めていきます。						
	課題解決のための改善内容・取り組み方針						
	■他機関の事業所等と協力しながら、地域の学校にボランティア体験の場として広げた行きます。						
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)						
	■ホームページや社会福祉協議会の情報誌に当センターにおいてボランティア体験の受け入れ情報を掲載してきます。						
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明				
		27年4月 ～ 27年9月	■ボランティア活動を取り入れている、つつじ園や障害者福祉センターふじしろ等との情報共有を行いながら協力校を検討していきます。				
27年10月 ～ 28年3月		■ボランティア活動を取り入れている、つつじ園や障害者福祉センターふじしろ等との情報共有を行いながら協力校を検討していきます。					
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見							
平成28年度も住民ニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いいたします。							

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成27年度	
実施項目名	小地域助け合い活動		担当係		地域支援係
			担当者	職名	係長
事業開始年度	平成26年度			氏名	小林一郎
根拠法令等					
プランにおける 該当項目	行動目標	4	みんなで集まり、協力しようー連携強化と拠点づくり		
	行動計画	②ー(1)	地域福祉推進体制を整備します		
現状と課題		小地域の中で様々な団体が活動し、それぞれの活動で成果を上げているが、地域全体でのネットワークや協働がない。			
目的 (何のために)		小地域の中で、自治会やボランティア、民生委員、行政、企業、施設等、情報を共有し、ネットワークをつくり、共に協力し合い、地域には何が必要か、何ができるかを話し合い、より良い地域づくりを目指す。			
対象 (誰・何を対象に)		自治会、ボランティア、民生委員、行政、企業、施設等団体の代表者			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた いのかなど)		自治会、ボランティア、民生委員、行政、企業、施設等団体の代表者により今後の課題を話し合う井野団地地区「地域助けあい座談会」、戸頭団地地区「地域助けあい座談会」を開催。定期的に開催。平成27年度中に核となる団体を選出し、座談会から体制を整えネットワーク化を図り、よりよいサービス体制確立を目指す。			
平成27年度 の実施状況		7月に井野団地地区「地域助けあい座談会」、戸頭団地地区「地域助けあい座談会」を開催。今年度から地域づくりに関する団体を助成する「助けあいのまちづくり」推進事業についての説明を行い、井野団地自治会、戸頭団地自治会からの申請があり、助成をした。地域助けあい座談会については参加者に了解をとり、ネットワークとして何かあった時に連絡を取れるようにするよう調整中。			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～ 3月	4	井野団地、戸頭団地での地域助けあい座談会により活動する団体や様々な課題を共有、話し合う機会ができた。また、「助けあいのまちづくり」推進事業の助成金により井野団地自治会では要支援者のマップづくり、戸頭団地自治会では防災マニュアルの作成をし、各家庭に配布することになった。	
	課題				
	地域ごとでそれぞれ違う課題をもち、解決に至らないまでもその対策などそれぞれに行っている。地域づくりについての参考にするためにもより多くの活動を知る必要がある。地域での取り組みを行っている先進的な自治会や少子高齢化対策など小地域での活動戸頭団地、井野団地以外でも様々な地域での活動についての把握が必要。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	地域での取り組みを行っている先進的な自治会や少子高齢化対策などを調査研究する。今年度「助けあいのまちづくり」推進事業で助成した井野団地、戸頭団地の取り組みも紹介して他の地域でも助けあいのまちづくりの参加しやすいように広報活動も充実させ他地域への波及を目指す。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	自治会町内会の活動について市民協働課等より活動の情報をなどをいただき調査する。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		28年4月 ～ 29年3月	小地域での活動を行う自治会、町内会、自主防災会など、まちづくりの推進を社協と連携し行う団体を募り活動展開する。		
年 月 ～ 年 月					
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
地域では様々な活動がある。それぞれ行われている活動の情報を集約し、地域の活動の充実が図れれば課題が解決できるので市民協働課の情報を得ながら進めていってほしい。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成27年度	
実施項目名	助けあいのまちづくり推進事業		担当係		地域支援係
			担当者	職名	係長
事業開始年度	平成27年度			氏名	小林一郎
根拠法令等					
プランにおける 該当項目	行動目標	4	みんなで集まり、協力しよう一連携強化と拠点づくり		
	行動計画	②-(6)	町内会（自治会）の活動を支援します。		
現状と課題		自治会への加入率の減少、少子高齢化により、自治会の多くは活動が困難になっている。一方、今後ますます高齢化が進み、福祉サービスが不足する中で地域の助け合い活動が重要になってくる。地域でできることを考え、誰もが参加しやすい仕組みづくりが望まれる。			
目的 (何のために)		誰もが地域の事を考えより良い福祉のまちづくりを実現するために、地域住民による「支えあい」「助けあい」による取り組みに対して活動費の一部を助成することによって、「助けあいのまちづくり」の推進を図ることを目的とする。			
対象 (誰・何を対象に)		取手市内自治会、町内会			
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)		広報等で「助けあいのまちづくり」の実践している、もしくはこれから取り組む自治会（町内会）を公募し、趣旨に合った団体を選定し助成額を交付する。助成金は1団体につき、1回に限り10万円を上限とし、助成した活動について事業終了後は報告書を提出してもらう。活動実績を踏まえ今後のより良い助けあいのまちづくりについての参考にし、調査研究をしより良い仕組みづくりとして広報等で公表し多くの団体に知ってもらい、他の団体への啓発をする。			
平成27年度 の実施状況		井野団地地区、戸頭団地地区での地域助けあい座談会において、地域づくりに関する団体を助成する「助けあいのまちづくり」推進事業についての説明を行い、井野団地自治会、戸頭団地自治会からの申請があり、助成をした。			

進行 管理	成果 状況			成果状況に対する説明
		4月～ 3月	3	「助けあいのまちづくり」推進事業の助成金により井野団地自治会では要支援者のマップづくり、戸頭団地自治会では防災マニュアルの作成をし各家庭に配布することになった。
	課題			
	広報とりで等で全地域対象として広報をしたが井野団地自治会と戸頭団地自治会の2地区のみの申請になった。多くの地域の参加により、様々な地域でまちづくりに関して考えてもらえるよう広報の充実を図る。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	広報活動の充実、どのような目的かを明確にし、まちづくりに関心を持ってもらう。また、今年度の取りんだ井野団地、戸頭団地の活動についても報告を兼ねてどのようなものかを広く知ってもらうため広報する。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	まちづくりに関する活発な活動をしている自治会、町内会、自主防災会等に趣旨説明をし、参加を促す。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		28年4月～ 29年3月	平成28年度も1団体10万円を限度に総額50万円として地域のまちづくりに対して助成金を交付する。様々な課題を話し合い、取り組みについての報告により今後のまちづくりの参考にして、社協での取り組みの方向性についての参考にする。	
年 月 ～ 年 月				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
平成28年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

			シート作成年度	平成27年度	
実施項目名	子育てネットワーク推進		担当係		地域支援係
			担当者	職名	係長
事業開始年度	平成26年度			氏名	小林一郎
根拠法令等					
プランにおける 該当項目	行動目標	5	子どもたちを地域で育もう		
	行動計画	②ー(1)	親子交流の場の整備に努めます		
現状と課題	子育て支援センターなど子育て世代が集う場所はあるが、小地域で地域ぐるみの交流場所がない。また同世代のみの交流になり、地域活動への参加にはつながらない。				
目的 (何のために)	小地域の中で子育て世代と地域社会のつながりをつくる。子育て世代のみならず地域住民が参加しやすい場を設け交流することによって地域でともに支える環境づくりをする。				
対象 (誰・何を対象に)	子育て世代、シニア、児童				
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた いのかなど)	自治会等地域での活動を視察し、協力を呼びかける。並行して子供向けレクリエーション講座を開催し、興味関心のある子育て世代、ボランティアとなりうるシニア世代の集う場を作る。イベントでの実績を作り、回数を徐々に増やしていき、サロン立上げを目指す。白山、戸頭、東部3ヶ所の地域子育て支援センターでのブレインジム開催。定期的開催により保護者への興味関心を高めボランティアにつなげる。最終的には子育てサロン開催を目指す。				
平成27年度 の実施状況	2月に東部、白山、戸頭の地域子育て支援センターでブレインジム（脳を活性化させる体操）の体験講座を開催。ブレインジムはお子さんの脳の活性化につながるため定期的に行うことができるよう、興味を持てるようなものを紹介する。最終的には保護者自身が地域子育て支援センター以外の場所でブレインジムに関するサロンを行えるよう社協でも協力する。				

進行 管理	成果 状況			成果状況に対する説明
		4月～ 3月	3	前年度を含め、4ヶ所の地域子育て支援センターでブレインジムを開催し、興味のあるところには定期的にブレインジムのボランティアを派遣し、子育て中の保護者やお子さんに有効な活動として定着を目指す。
	課題			
	現在ブレインジム指導員は、自治会等認知症予防の高齢者向けに多く派遣しているため、子供向けやメンタル面での保護者向けのブレインジムについてボランティアさんの周知がなされていない。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	子供向けやメンタル面での保護者向けのブレインジムも指導員で行えるように学習会を開催する。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	地域子育て支援センター担当者にもブレインジムについてある程度の知識を持ってもらい指導補助等協力してもらう。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		28年4月 ～ 29年3月	地域子育て支援センター4ヶ所でのブレインジム開催。子供向け保護者のメンタル面でのサポートができるようなブレインジムを定期的に行えるような体制作りを目指す。最終的には参加した保護者によるブレインジムの勉強会を兼ねた子育てサロン開催を目指す。	
年 月 ～ 年 月				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
平成28年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成 2 7 年度
実施項目名	子ども会協働事業	担当係		地域支援係
		担当者	職名	係長
事業開始年度	平成 2 7 年度		氏名	小林一郎
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	5	子育て支援の促進	
	行動計画	②ー(3)	子ども会活動を支援します	
現状と課題	自治会の活動で役員になりたがらないという話が聞かれる。子供会の活動は将来その地域にかかわる第一歩であるため重要となる。将来の地域を支える起点として従来の子ども会活動とは視点を換え、防災、防犯など自治会が行う地域の活動に参加しながら地域に目を向け今の子供たちが将来大人になった時、地域に関心を持ち、自分でも積極的に子供会活動や自治会活動に参加できるような仕組みを作る。			
目的 (何のために)	将来を担う子供たちは地域の中で様々な人たちの中で暮らしていることを学び、スクールガードや防災、防犯など小地域活動を支える、地域での助けあい活動に参加するなどボランティア精神も養いながら自然と地域に対する関心を植え付け、同時に子供会も積極的に参加できるよう促す。また、年齢問わずより多くの方々集えるような会に支援する。			
対象 (誰・何を対象に)	子育て世代、シニア、児童等			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	活発に行っている子ども会を視察。モデル地区を指定し、地域での活動を基盤として、自治会の協力を得て、ボランティア、自主防災会など地域での活動、地域のイベント等に参加するための仕組みづくり協力体制について研究、支援する。			
平成27年度 の実施状況	子ども会活動を活発に行っている自治会についての調査を行い、活動の状況を取材した。つつじが丘で行われている子供とお年寄りが同時に参加するつつじが丘で行われているコミュニティサロンの行事に参加。ボランティアや自治会との協力体制など運営の状況についても調査した。また、桜が丘自治会が行った小学生に地域の危険個所を考えてもらうD I G（災害図上訓練）に参加。地域の防災について分りやすく説明し、地域の自主防災会の役員がグループの中に入り説明しながらワークショップを行うことで地域の方々の活動も伝えながら防災意識も高めていた。			

進行 管理	成果 状況			成果状況に対する説明
		4月～ 3月	2	市内の活動の実態把握が必要だが調査が不十分な状況。活発な活動をしているところでの調査を引き続き行う。
	課題			
	少子化の影響によりこども会の活動が低迷している。現在行っている活動のほかに社協との協力による活動は困難と思われる。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	実際に行っている活動の規模の拡大、参加者を増やす努力など新たな展開ではなく、まずは既存の活動についての協力についてを考える。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	地域の活動状況を自治会、市の協力により情報を提供してもらい、事例を検討する。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		28年4月 ～ 29年3月	子ども会の活動についても自治会等の活動として助けあいのまちづくり推進事業助成金の説明を行い、資金的な支援により活動の活発化を目指す。	
年 月 ～ 年 月				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
平成28年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成27年度	
実施項目名	子育て支援の輪づくり	担当係		地域支援係	
		担当者	職名	主幹	
事業開始年度	平成26年度		氏名	廣瀬嘉子	
根拠法令等					
プランにおける該当項目	行動目標	5	子どもたちを地域で育もう		
	行動計画	②－(4)	家族るれあいの機会をつくります。		
現状と課題	子育てをしながら安心して働くことが出来るようにサポートしていく。子育ての手助けを必要としている人が市内の中でたくさんいると思われます。そして、核家族が多い昨今では大家族でふれあう機会が少ないと考えます。幅広い世代間で交流できる場所の提供。				
目的 (何のために)	子育て中の親子が交流・仲間づくりが出来る場づくり				
対象 (誰・何を対象に)	ファミリーサポートセンター利用会員・協力会員、または市内の親子				
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた いのかなど)	利用会員・協力会員に興味を持ち参加頂ける交流会の内容を十分に検討する。例えば、親子が好むリズム遊び・人形劇等ボランティア人材と探す。また、周知についても今まで以上に拡大できるよう、担当全員で調整していく。そして昨年に引き続き利用会員と協力会員にダイレクトメールでお知らせし、また会員以外の方にも多く参加してもらう為、市内4カ所の子育て支援センターにチラシを置き50人参加を目指す。				
平成27年度 の実施状況	利用会員・協力会員向けの交流会を開催。 ボランティアさんの協力によりマジックショーと人形劇を開催。参加人数は20名。 子どもと大人に楽しんで頂くことができました。				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明
		4月～ 3月	3	利用者の参加は多かったが、協力会員の参加が少なかった為、交流はなかなか難しい。しかし、親子で楽しむことが出来たので良かったと思います。
	課題			
	協力会員用・利用会員用別々の研修会はありますが、利用会員と協力会員両方の方に両者に興味がある研修会を検討していきたいと思います。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	利用会員、協力会員が来所した時に交流会や研修会で取り上げてほしい内容を聞きだし参考にする。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	子育てに関する情報が多い、市役所の子育て支援課の協力を得て計画していきたいと思います。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		28年4月 ～ 28年8月	アドバイザーとともに実施する内容を十分に情報収集をする。	
28年9月 ～ 28年12月		交流会を開催。参加人数の目標は30人。		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
平成28年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				

さくら荘『郷土史ウォーキング』

アンケート集計結果

開催日：平成27年11月28日(土)

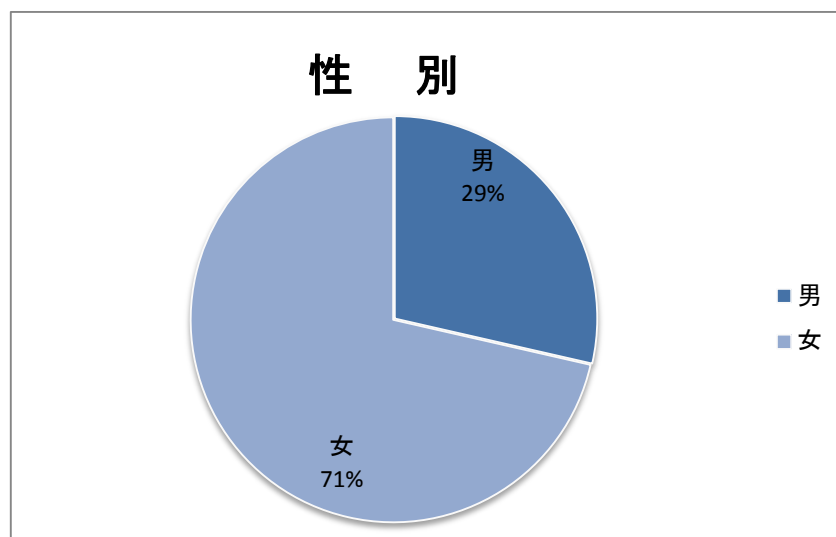
参加者数 30名

回答者数 21名

回収率 70%

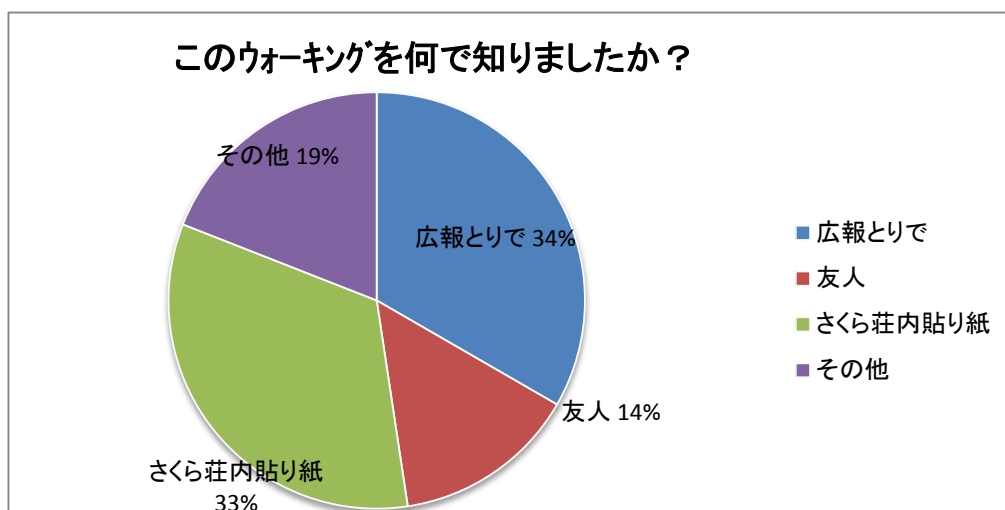
1. 性別を教えてください。

男	6
女	15



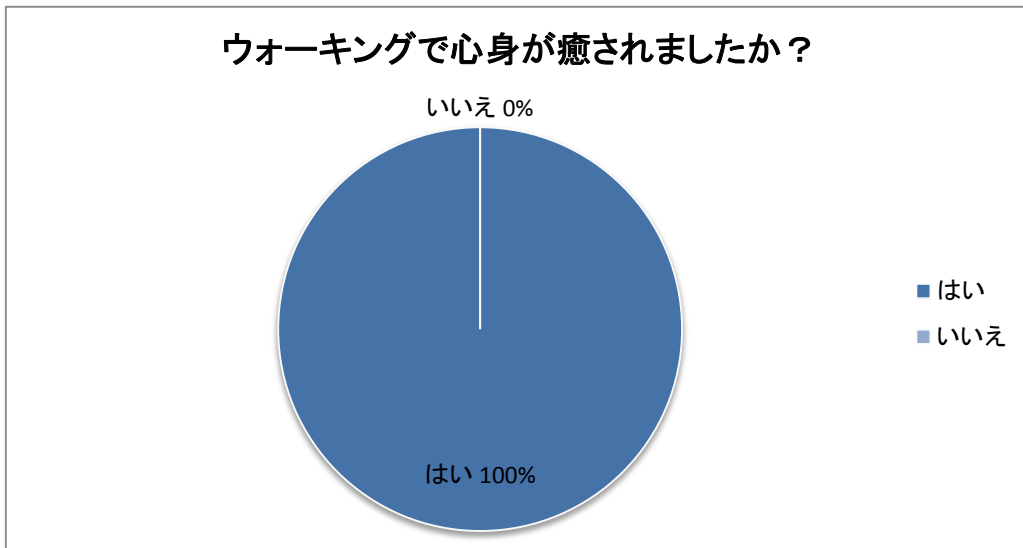
2. このウォーキングを何で知りましたか？

広報とりで	7
友人	3
さくら荘内貼り紙	7
その他	4



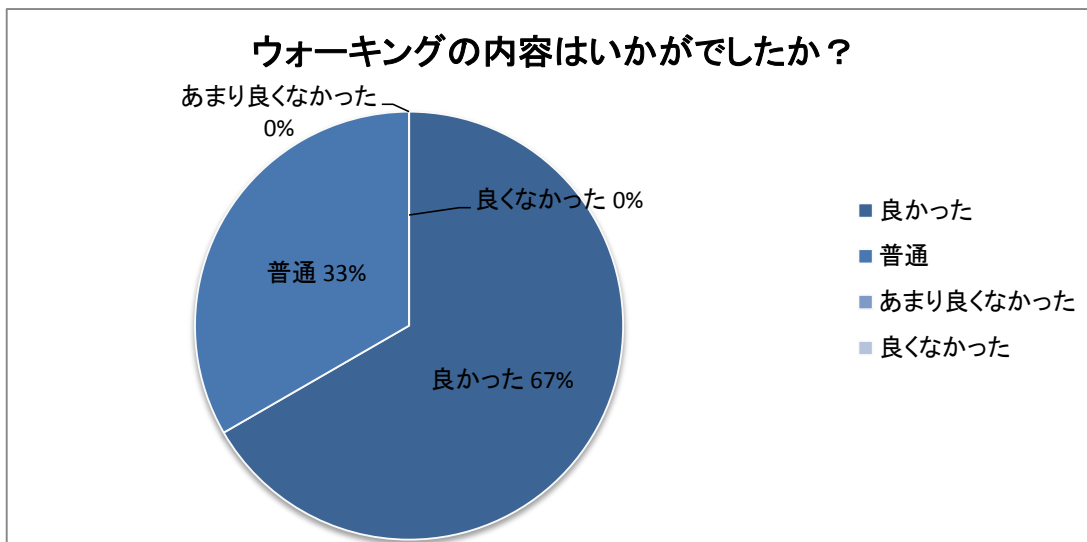
3. ウォーキングで心身が癒されましたか？

はい	21
いいえ	0



4. ウォーキングの内容はいかがでしたか？

良かった	14
普通	7
あまり良くなかった	0
良くなかった	0



5. 4. で①に○を付けた方にお伺いいたします。

どんなところが良かったですか？

- ・取手の知らない所を、気持ちよく歩きました。
- ・歴史の勉強になりました。
- ・距離も適当、史跡も良かった。
- ・自然の景観。
- ・近場なのに知らない所が多かったところを知ったこと。
- ・近所でも歩くことのない道等を通れた。
- ・三角点などを初めて知りました。
- ・足が程よく疲れた。
- ・久々に景色のよいところを歩いた。
- ・ゆっくりと歩きました。
- ・取手市の知らない場所を知りえた。

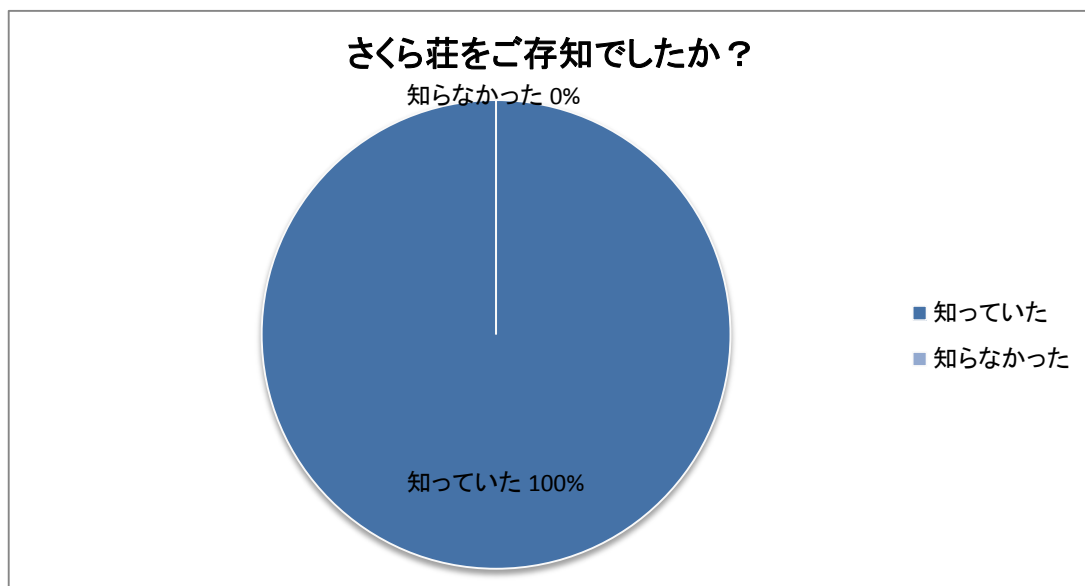
6. 4. で③ ④に○を付けた方にお伺いいたします。

どんなところが良くなかったですか？

- ・紅葉

7. さくら荘をご存知でしたか？

知っていた	21
知らなかった	0

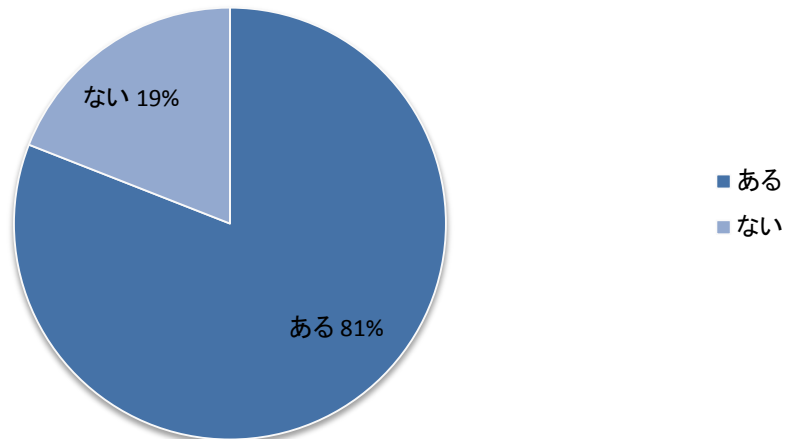


8. 7. で①に○を付けた方にお伺いいたします。

今まで利用したことはありますか？

ある	17
ない	4

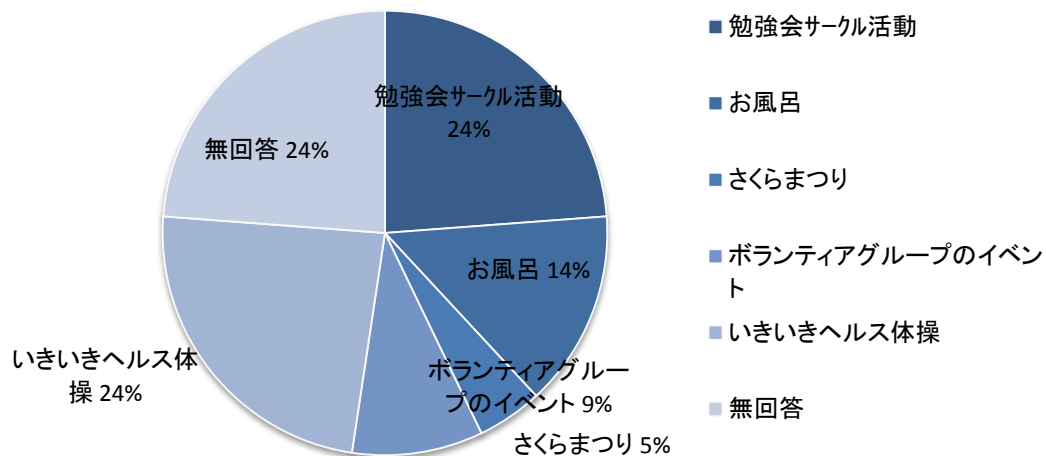
今まで利用したことがありますか？



どんなことで利用されましたか？

勉強会サークル活動	5
お風呂	3
さくらまつり	1
ボランティアグループのイベント	2
いきいきヘルス体操	5
無回答	5

どんなことで利用されましたか？

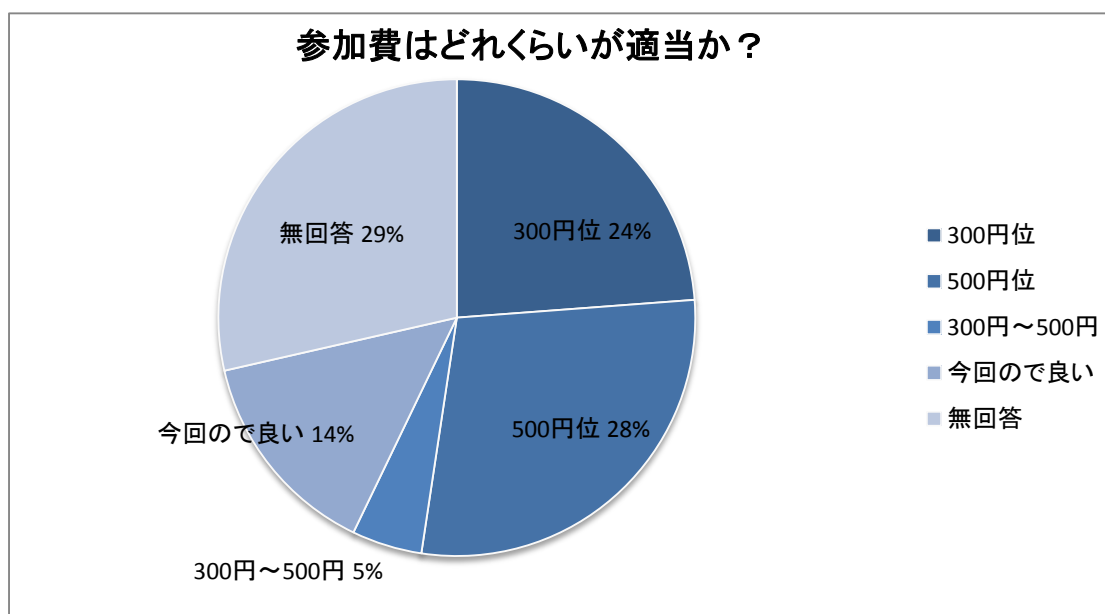


9. 今後、ウォーキングで行ってみたい場所等があれば教えてください。

- ・小文間の古墳
- ・市内.外どこでもOKです。
- ・利根川の上流
- ・どこでも
- ・取手市内何か所かに区切って、今日のようにまわりたい。(1年かけても良い)

10. 参加費について伺います。参加費を払うとしたらどれくらいが適当だと思われますか？

300円位	5
500円位	6
300円～500円	1
今回ので良い	3
無回答	6



11. ウォーキングに参加されたご感想、さくら荘に関するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

- ・去年参加できなかったので、参加してみたかった。
- ・ありがとうございました。お天気も良く最高でした。又、是非参加させていただきます。
- ・お天気に恵まれ、清々しい1日でした。スタッフの方々のお気遣いもとても良かったです。
次回も是非参加したいです。
- ・皆さんと歩けたのが楽しかった。
- ・健康を維持するためにも、ウォーキングをこれからも企画していただきたい。
(取手市内何か所かに区切って今日のようにまわりたい。)
- ・心の癒しにもなって、とても良かった。
- ・皆さんと歩いてのウォーキングは気持ち良かったです。
- ・さくら荘は小奇麗で明るい(ロビー等)感がしました。
- ・自分で来れるところの催しはうれしい。
- ・怪我なかった。
- ・とても良かった。今後も参加したいです。
- ・皆さんと良い所でお弁当が食べたいです。
- ・史跡勉強と運動が出来て大変良かった。
- ・今回、さくら荘ウォーキングを知り初めて参加しました。個人では、行かない様な所も歩いて
良かったです。